

平成29年度 全国学力・学習状況調査

調査結果の概要

吹田市教育委員会

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

1. 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1

2. 学力・学習状況の概要

 1 教科に関する調査結果

 (1) 全体の概要・・・・・・・・ P 2

 (2) 各教科の概要・・・・・・・・ P 3

 (3) 各教科設問別分析・・・・ P 1 1

 2 生活習慣や学習環境等に関する調査結果

 (1) 自分自身のことについて・・・・ P 2 9

 (2) 家庭生活について・・・・ P 3 2

 (3) 学校生活・学習について・・・・ P 4 0

 (4) 調査教科（国語、算数・数学）について・・・・ P 4 6

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・ P 5 1

はじめに

本市では、教育施策や学校における指導方法の工夫改善につなげるため、これまでも、本市独自の学力実態状況調査や、大阪府学力・学習状況調査を活用し、児童・生徒の学力・学習状況を把握し、課題について検証してまいりました。今年度も、全小・中学校において、文部科学省が実施する全国学力・学習状況調査に参加し、これまでと同様に、教科の概要とともに、児童・生徒の意識調査から学習意欲や学習方法等に見られる課題について分析を行いました。

また、小中一貫教育モデル校である、平成23年度に開校した千里みらい夢学園開校前の直近の全員調査である平成21年度と比較、掲載することにより、小中一貫教育を進めてきた吹田市の教育を客観的に測ろうとしております。

本市の教育が目指すところは、小中一貫教育を基盤とし、次世代を担う子どもたちに困難に打ち克ってくじけない、「知」「徳」「体」の調和がとれた「総合的人間力」を育成することです。

各学校において、子どもの学力向上につながる「魅力ある授業づくり」等、具体的な指導方法の工夫改善を図るとともに、教育委員会としましても、調査結果の分析を各学校の授業研究を支援する体制づくり等、教育施策に反映させ、確かな学力を育む取組を積極的に進めてまいります。

1. 調査の概要

(1) 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施日 平成29年(2017年)4月18日(火)

(3) 調査対象 小学校6年生・中学校3年生の児童・生徒

(4) 本市受験者数 小学校 36校 (3230名) 中学校 18校 (2947名)

(5) 調査内容

ア. 学力に関する調査 : 小学校 (国語A・国語B、算数A・算数B)
中学校 (国語A・国語B、数学A・数学B)

◇主として「知識」に関する内容…A問題
◇主として「活用」に関する内容…B問題

イ. 学習状況に関する調査

児童・生徒を対象に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関するアンケート調査

ウ. 学校の取組に関する調査

学校を対象に学校における教育条件の整備状況や指導方法等に関するアンケート調査

(6) 調査経緯

全国学力・学習状況調査は平成19年度～平成21年度に全員調査を行い、平成22年度・平成24年度・平成25年度は3割の抽出校及び希望校による調査でした。平成23年度は東日本大震災のため、中止となりました。平成26年度以降は再び全員調査となっています。

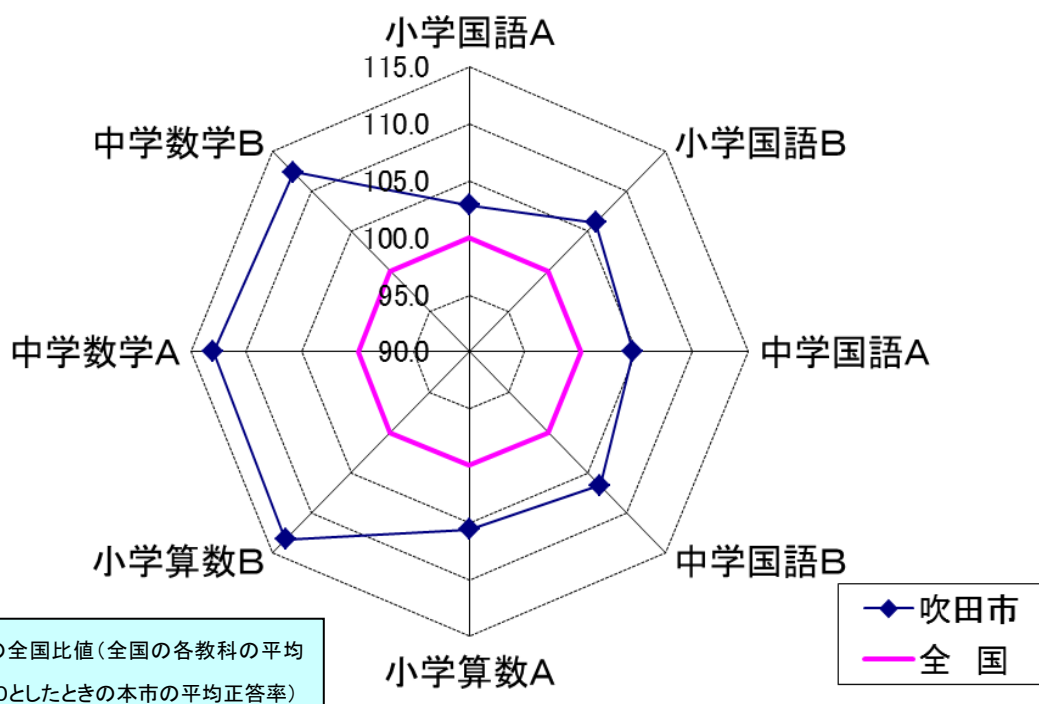
2. 学力・学習状況の概要

1 教科に関する調査結果

(1) 全体の概要

- 国語については、小学校・中学校とも全国値を上回っているとともに、A（知識）問題よりもB（活用）問題の全国比值が高い。
- 算数・数学については、小学校は全国値を上回っており、中学校は大きく上回っている。また、小学校はA問題よりもB問題の方が全国比值は高い。
- 前回調査（平成28年度）と比較すると、小学校算数B問題以外の正答率の全国比值が減少した。
- 無解答率は、中学校は全体的に全国値よりも下回っているが、小学校は国語Aのすべての領域において全国値を上回った。特に、短答式、記述式の設定においてはその傾向が顕著である。
- 小中一貫教育リーディングスクールである千里みらい夢学園開園前である平成21年度の結果と比較すると、小学校では算数は上回っているが国語は下回っている。中学校は国語・数学ともに平均正答率は安定して向上しており、小中一貫教育による確かな学力の育成に一定の成果が見られる。

【吹田市】平成29年度 校種・教科別全国比值



【吹田市－全 国】校種・教科別正答率の全国比值（全国の平均正答率を100としたときの吹田市の平均正答率）

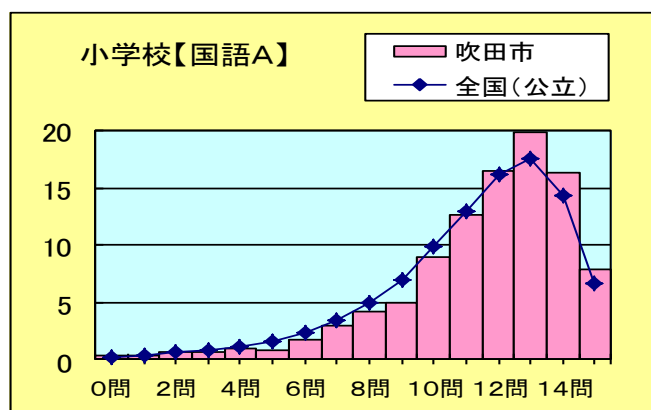
	小学国語A	小学国語B	小学算数A	小学算数B	中学国語A	中学国語B	中学数学A	中学数学B
H29吹田	102.9	106.1	105.6	113.3	104.7	106.6	113.0	112.3
H28比	▼3.0	▼0.7	▼0.7	3.8	▼0.1	▼0.6	▼1.8	▼7.2
H21比	▼2.4	▼3.8	0.9	2.9	5.6	8.1	6.0	8.6
H28吹田	105.9	106.9	106.3	109.5	104.8	107.2	114.8	119.5
H21吹田	105.3	109.9	104.7	110.4	99.1	98.5	107.0	103.7

※▼はマイナスを表す

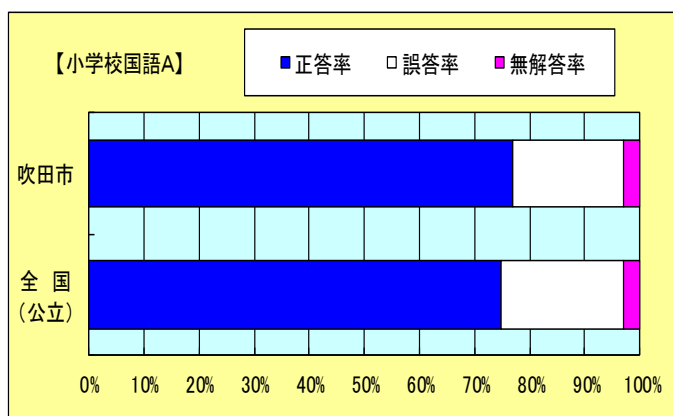
(2) 各教科の概要

【小学校国語A】

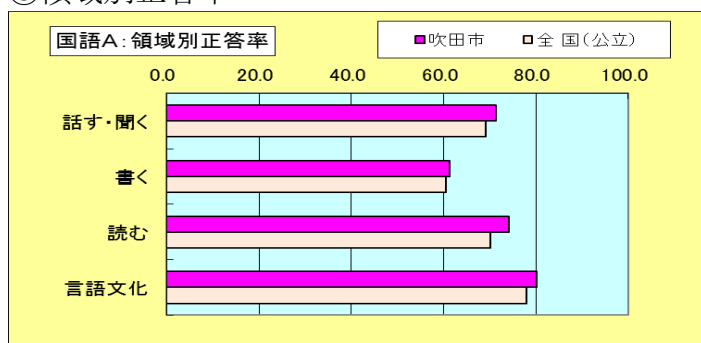
① 正答数分布グラフ



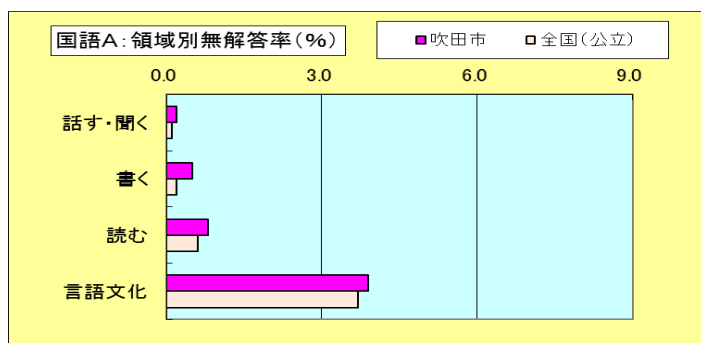
② 正答率・誤答率・無解答率



③ 領域別正答率



④ 領域別無解答率



○本市児童の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、13問を頂点とする右寄りの山型を描き、全国状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い。

○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語文化」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語文化」のすべての領域において、本市の無解答率はやや全国を上回っている。

○「話すこと・聞くこと」領域において、互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら聞く設問はできている。

○「書くこと」領域において、手紙の構成を理解し、後付けを書く設問の正答率は全国値をやや下回っており、手紙を書く経験などを増やす必要を感じる。

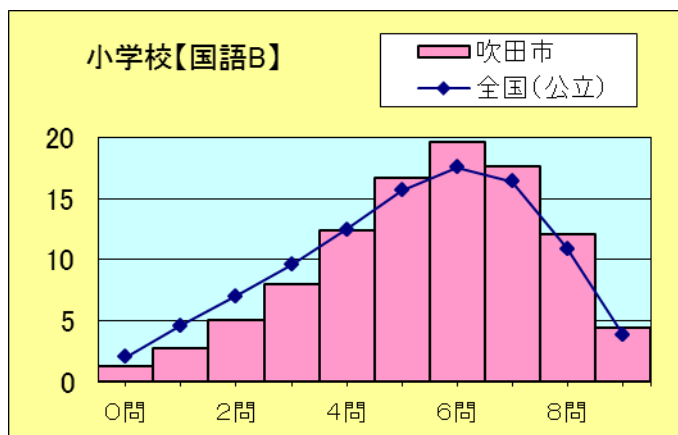
○「読むこと」領域において、俳句の情景を捉える設問、目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読む設問共に理解できている。

○「言語文化」領域においては、ことわざや古文に関する設問は、よく理解できている。漢字の読みを問う設問の一つは全国値を2.8%下回っている。「たいしょう」のような同音異義語の理解に課題がある。

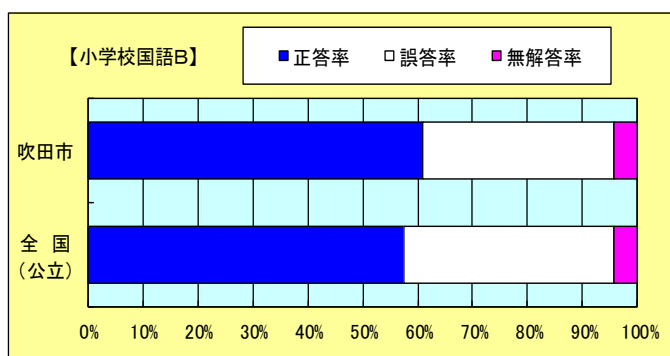
○国語Aでは15設問中13の設問で全国値よりも無解答率が高く、選択式問題においては、全て全国値を上回っている。あきらめず、問題に粘り強く取り組む力を育てる必要がある。

【小学校国語B】

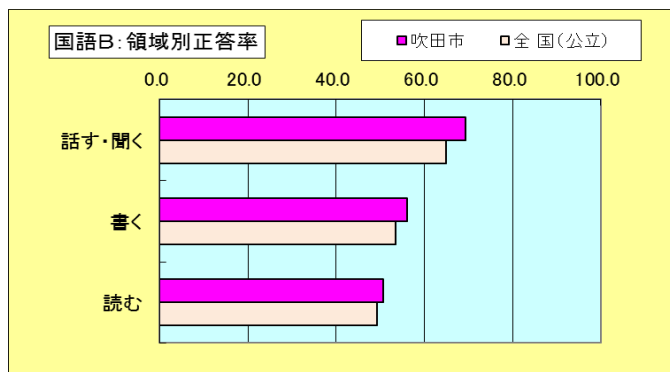
①正答数分布グラフ



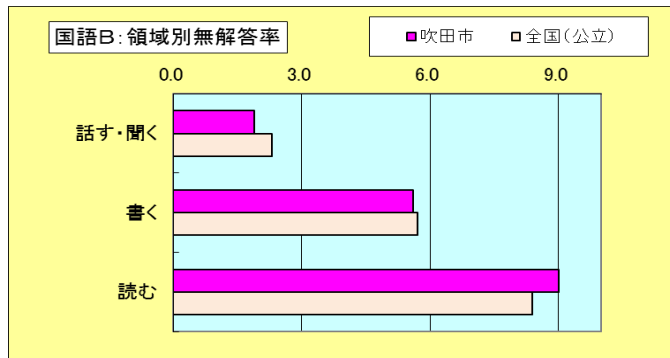
②正答率・誤答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市児童の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、6問を頂点とする右寄りの山型を描き、全国（公立）の状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い。

○「話す・聞く」「書く」「読む」のすべての領域において、本市の正答率は全国（公立）を上回っている。

○「話す・聞く」「書く」の領域において、本市の無解答率は全国（公立）を下回っているが、「読む」の領域においては、全国（公立）の数値を上回っている。

○「話すこと・聞くこと」領域において、目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すことに課題がある。

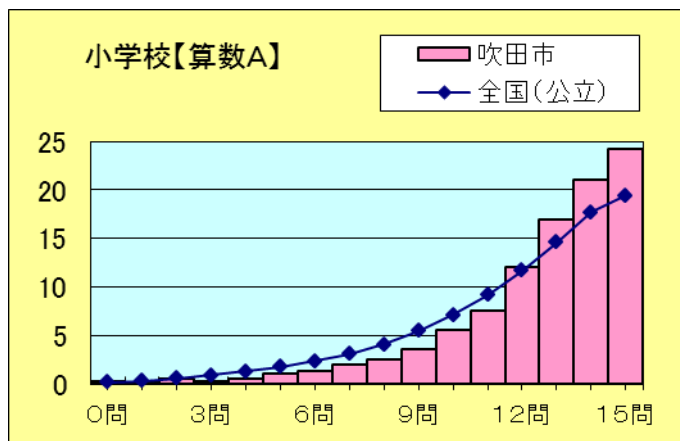
○「書くこと」領域において、目的や意図に応じ、引用して書く設問の正答率は全国（公立）値を5%以上、上回っているが、物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる設問の正答率は全国（公立）値を0.5%下回っており、課題がある。

○「読むこと」領域においては、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える設問や自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える設問は全国（公立）値を数%上回っている。

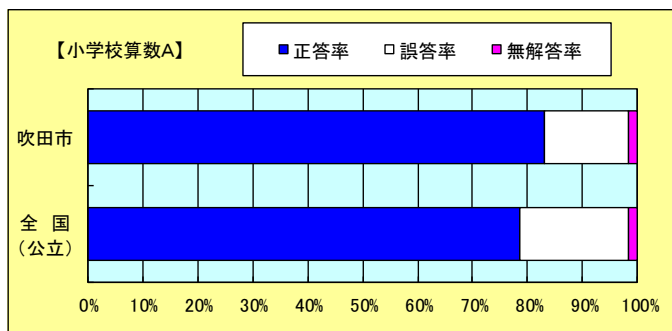
○9つの設問のうち、3つの設問で無解答率が全国（公立）値を上回っている。記述式問題だけでなく、選択式問題でも無解答率が高いことに課題がある。

【小学校算数A】

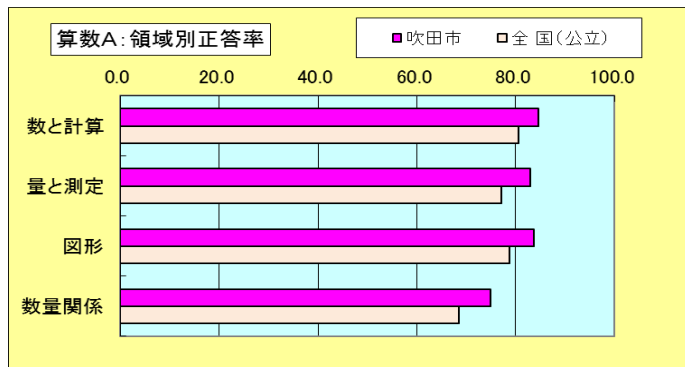
①正答数分布グラフ



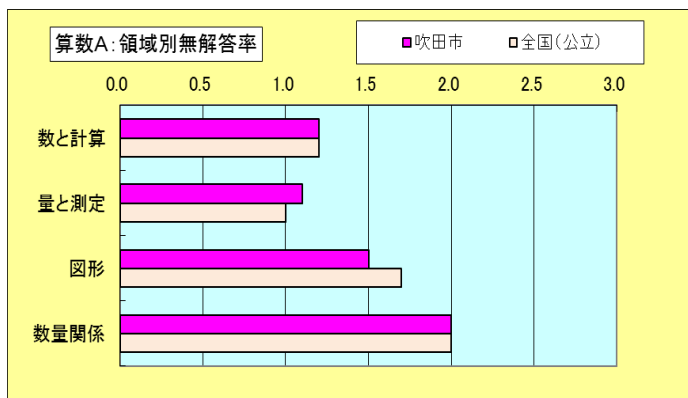
②正答率・誤答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市児童の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、正答数が高いほど割合も大きくなっており、全国との状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い。

○「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「図形」領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。「量と測定」領域は全国を上回っている。「数と計算」「数量関係」領域では、わずかなが全国を下回っている。

○「数と計算」領域では、加法と乗法の混合した整数と小数の計算、商を分数で表すことに課題がある。

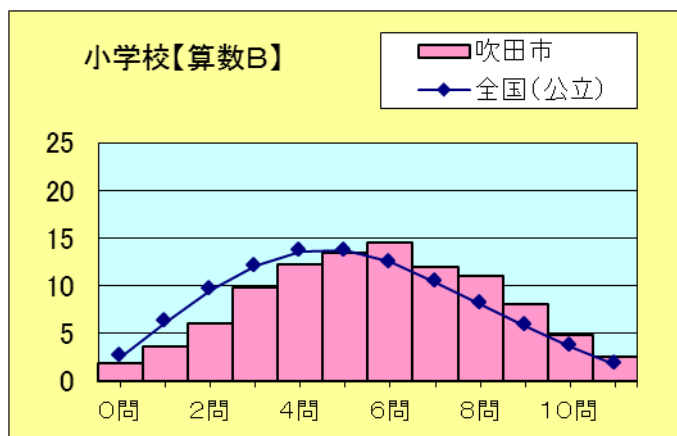
○「量と測定」領域では、高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解することについて全国値を上回っている。

○「図形」領域では、立方体の面と面の位置関係を理解することに課題がある。

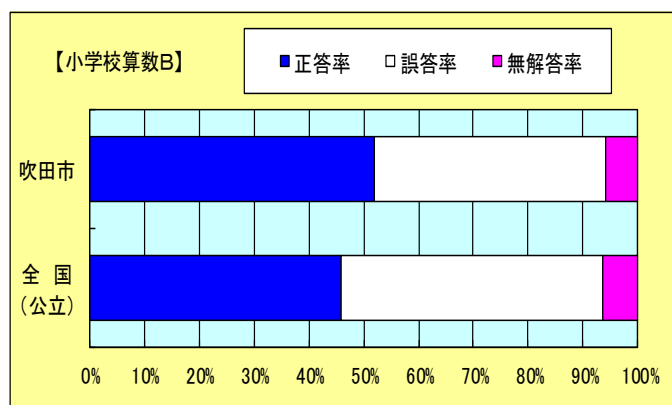
○「数量関係」領域では、資料を二つの観点で分類整理することにより、集団の傾向をよりの確に把握することができる「二次元表」の合計欄に入る数を求めることに課題がある。

【小学校算数B】

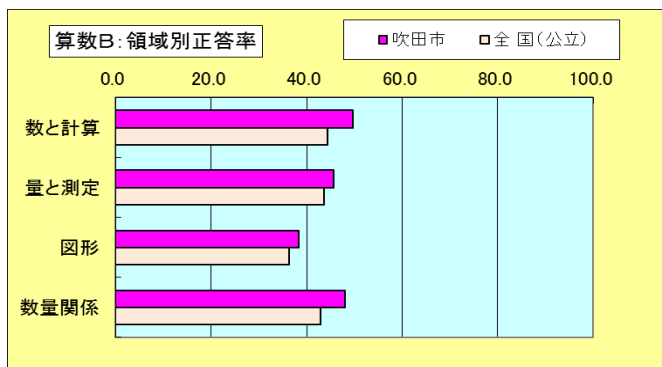
①正答数分布グラフ



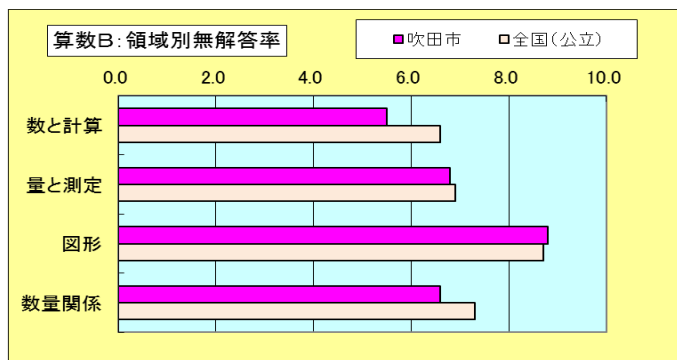
②正答率・誤答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市児童の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、6問を頂点とする山型を描き、全国の場合と比べて低位層が少なく、高位層が多い。

○「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。「図形」の領域において、本市の無解答率は全国をやや上回っている。

○「数と計算」領域では、全国の正答率を上回っている。直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することに課題がある。

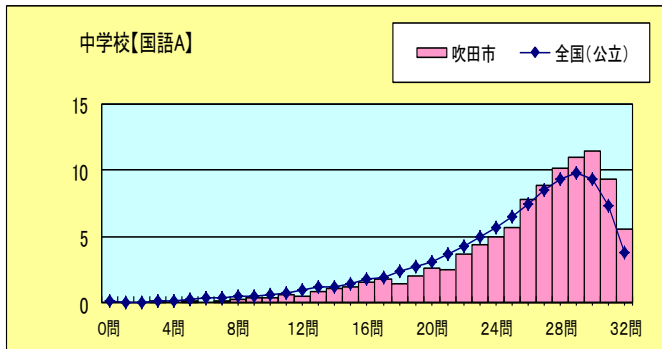
○「量と測定」領域では、仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述することに課題がある。

○「図形」領域では、身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述することに課題がある。

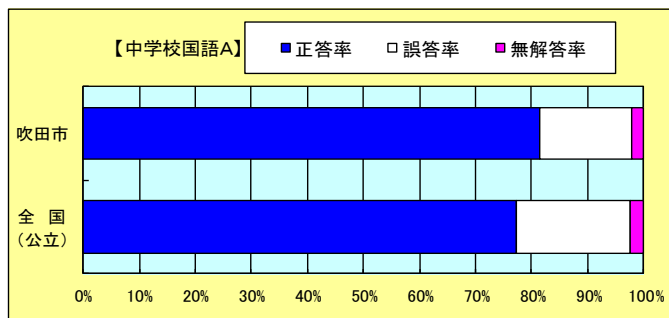
○「数量関係」領域では、全国の正答率を上回っている。割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができるかどうかをみることに課題がある。

【中学校国語A】

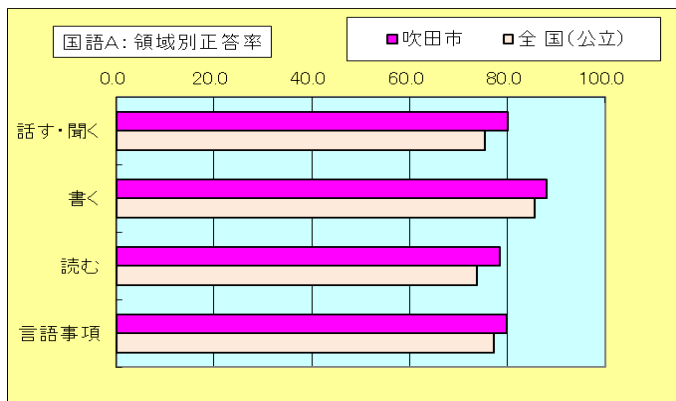
①正答数分布グラフ



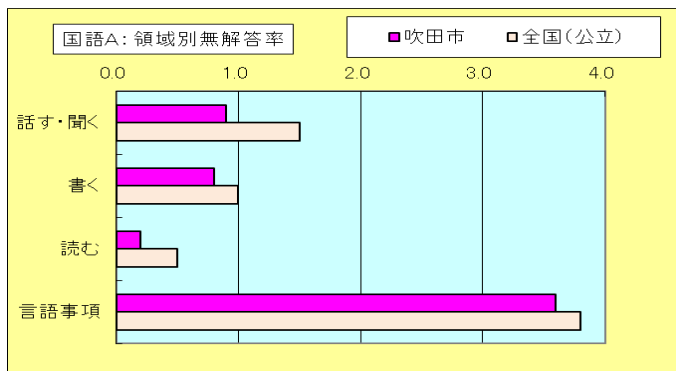
②正答率・誤答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市生徒の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、30問を頂点とする右寄りの山型を描き、全国と比較して低位層が少なく、高位層が多い。

○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」全ての領域、全ての設問において、本市の正答率は全国を上回っている。

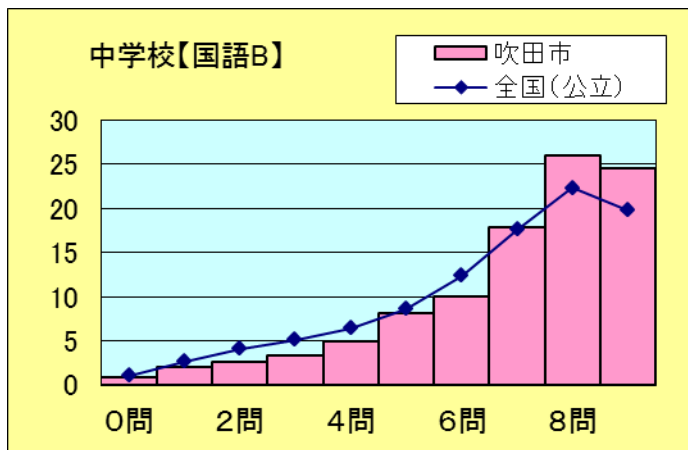
○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」の領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。

○「言語事項」領域では、適切な語句を選択する設問において、4問中3問が全国の上回っているが、残りの1問が全国の上回率を5%以上、下回っており、課題である。

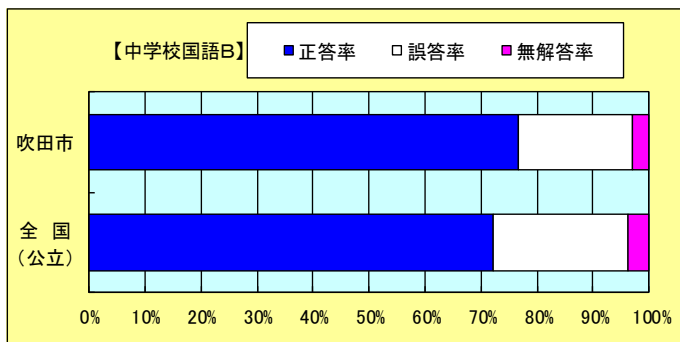
○漢字を書く、漢字を読む設問においては、全6問中5問が全国の上回率を上回っており、そのうち2問が5%以上、上回っている。

【中学校国語B】

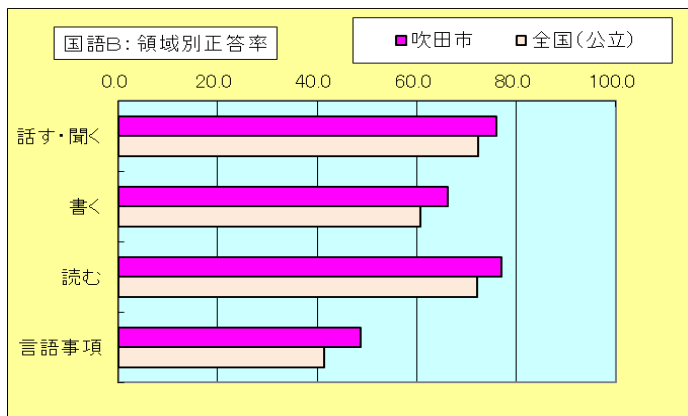
①正答数分布グラフ



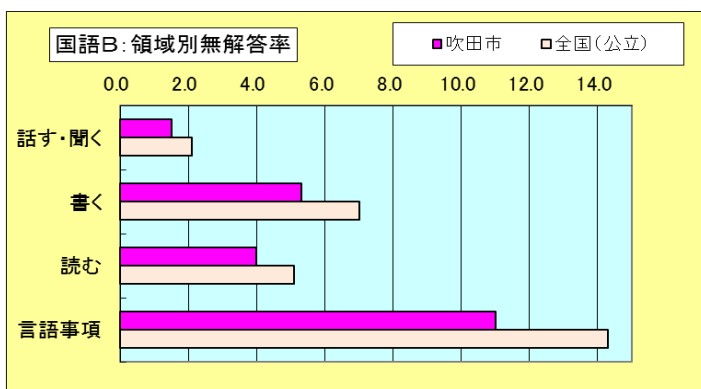
②正答率・誤答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市生徒の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、全国と同様8問を頂点とする右寄りの山型を描き、全国との状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い。

○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

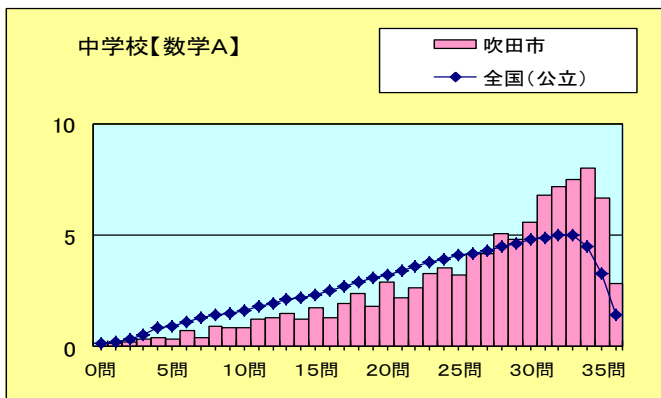
○「話す・聞く」「書く」「読む」「言語事項」のすべての領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。

○「書くこと」「読むこと」「言語事項」の3領域にまたがる、表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことができるかどうかをみる設問は、全国の平均正答率を5%以上、上回っているが、正答率が50%以下、無解答率が11.0%となっており、課題がある。

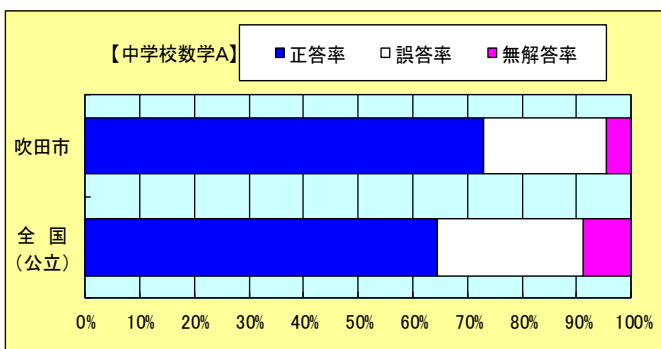
○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の2領域にまたがる、相手の反応を踏まえながら、事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことができるかどうかをみる設問や、「書くこと」領域の、必要な情報を集めるための見通しを持つことができるかをみる設問の無解答率は全国値を下回っているものの、5%前後の無解答率となっており、課題がある。

【中学校数学A】

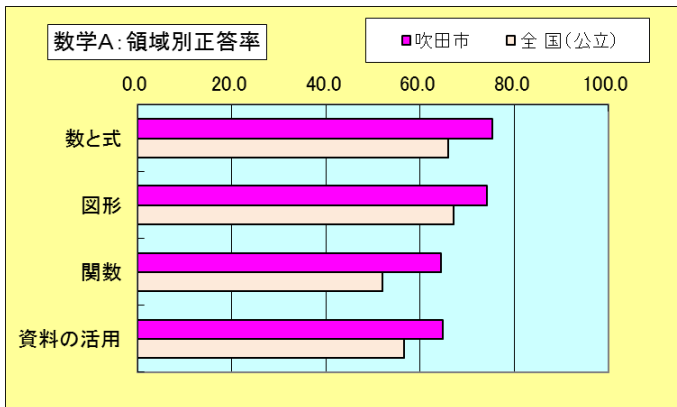
①正答数分布グラフ



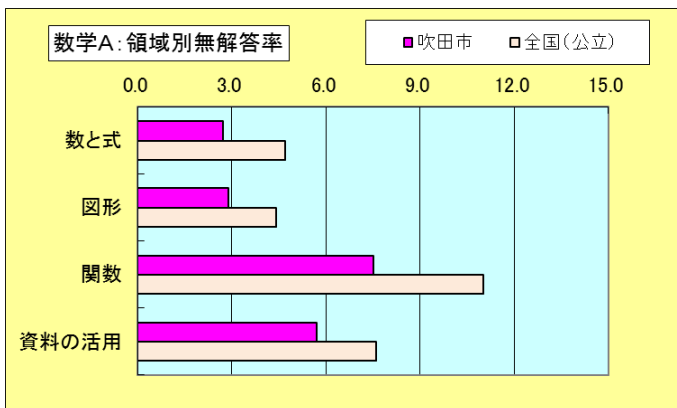
②正答率・誤答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市生徒の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、34問を頂点とする右寄りの山型を描き、全国状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い。

○「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。

○「数と式」「図形」「関数」の領域において、知識・理解や技能を問う設問について正答率の高いものが多い。

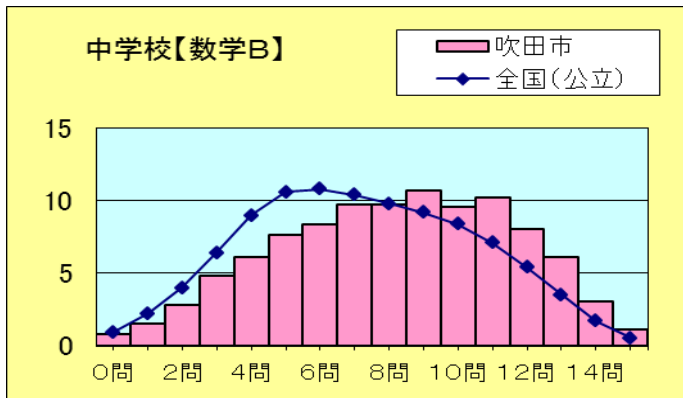
○「図形」領域の扇形の弧の長さを求める設問については、正答率が50%を下回り、また無解答率も高く、課題がある。

○「関数」領域の関数の意味や反比例の比例定数を求める設問については、正答率が50%を下回り、また無解答率も高く、課題である。特に関数の意味理解については、正答率が30%を下回っており、課題が大きい。

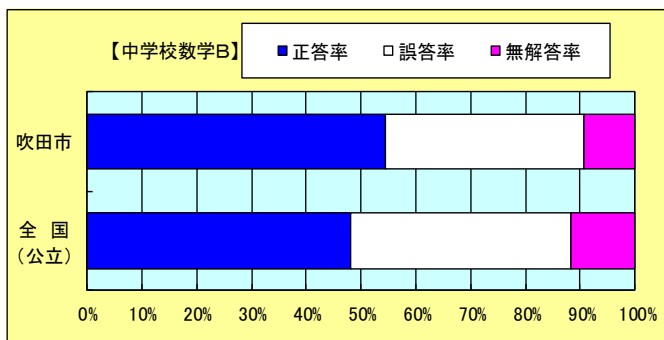
○「資料の活用」領域においては、確率に関する設問については正答率が高いが、資料の整理に関する設問については正答率が低い。特に、「範囲」の意味理解については、正答率が30%程度にとどまり、課題が大きい。

【中学校数学B】

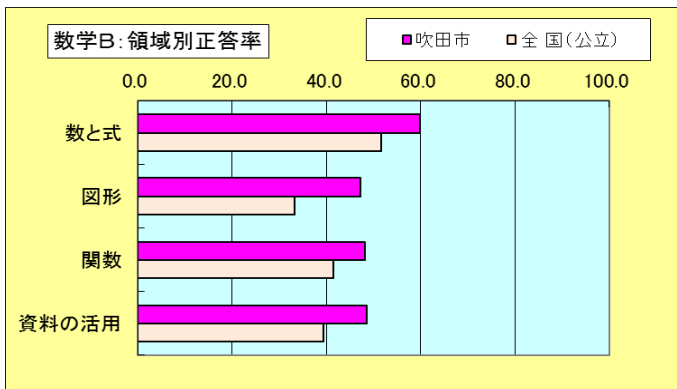
①正答数分布グラフ



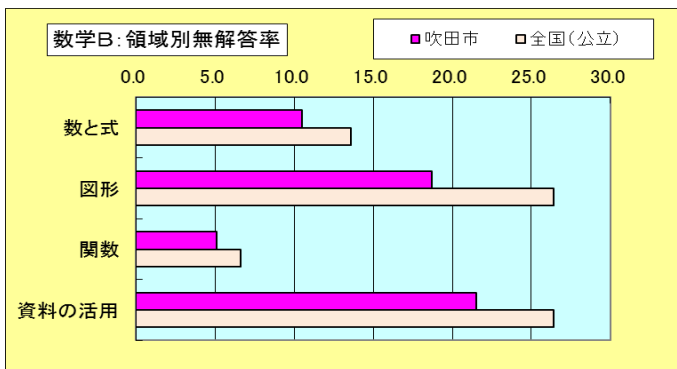
②正答率・誤答率・無解答率



③領域別正答率



④領域別無解答率



○本市生徒の平均正答率は、全国を上回る結果であった。

○正答数分布は、全国と同様低中位層も多いなだらかな山型を描いているが、頂点の位置が異なり全国の状況と比べて低位層が少なく、高位層が多い。

○「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域において、本市の正答率は全国を上回っている。

○「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域において、本市の無解答率は全国を下回っている。

○「数と式」領域では、「六角形をつくるために必要なストローの本数」に関する設問において、正答率が30%を下回り、無解答率も高く、事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

○「図形」領域では、「回転移動」に関する設問において、正答率が30%を下回り、2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

○「関数」領域では、「表やグラフを活用する」設問において、正答率が30%を下回り、無解答率も低く、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

○「資料の整理」領域では、「グラフの特徴を基に説明する」設問において、正答率が20%を下回り、無解答率もかなり高く、課題が大きい。

(3) 各教科設問別分析

【小学校 国語A】

◇ほとんどの設問について、正答率は全国平均を上回る結果であった。

設問番号	設問の概要	学習指導要領の区分等	正答率		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1	学級文集のタイトルを決める話合いにおける野村さんの報告の説明として適切なものを選択する	聞く・話す	69.2	71.4	○
2一	お礼の気持ちを伝えるために、どのような内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する	書く	79.7	81.2	—
2二	手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する		41.5	41.4	—
3	学校新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、小野さんと今村さんが中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する	読む	74.4	79.5	◎
4一	俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する		79.4	82.2	○
4二	グループの話合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する		57.0	60.8	○
4一	俳句の情景について考えたこととして適切なものを選択する	言語事項	79.4	82.2	○
4二	グループの話合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する		57.0	60.8	○
5ア	ことわざの使い方の例として適切なものを選択する(三度目の正直)		90.0	93.5	○
5イ	ことわざの使い方の例として適切なものを選択する(もちほもち屋)		83.6	87.6	○
6	【「外郎売」の一部】を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する		71.1	76.5	◎
7(1)	漢字を書く(参加たいしょう)		42.0	43.5	—
7(2)	漢字を書く(4年生のきぼう者)		80.0	81.0	—
7(3)	漢字を読む(申しこみ期限)		94.5	94.9	—
7(4)	漢字を読む(事務室前)		88.8	86.0	△
7(5)	漢字を書く(箱がおいてあります)		76.8	90.6	◎
7(6)	漢字を読む(指示)		94.5	94.8	—

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の正答率を5ポイント以上上回る	◎
全国の正答率を2～4.9ポイント上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2ポイント未満)	—
全国の正答率を2～4.9ポイント下回る	△
全国の正答率を5ポイント以上下回る	×

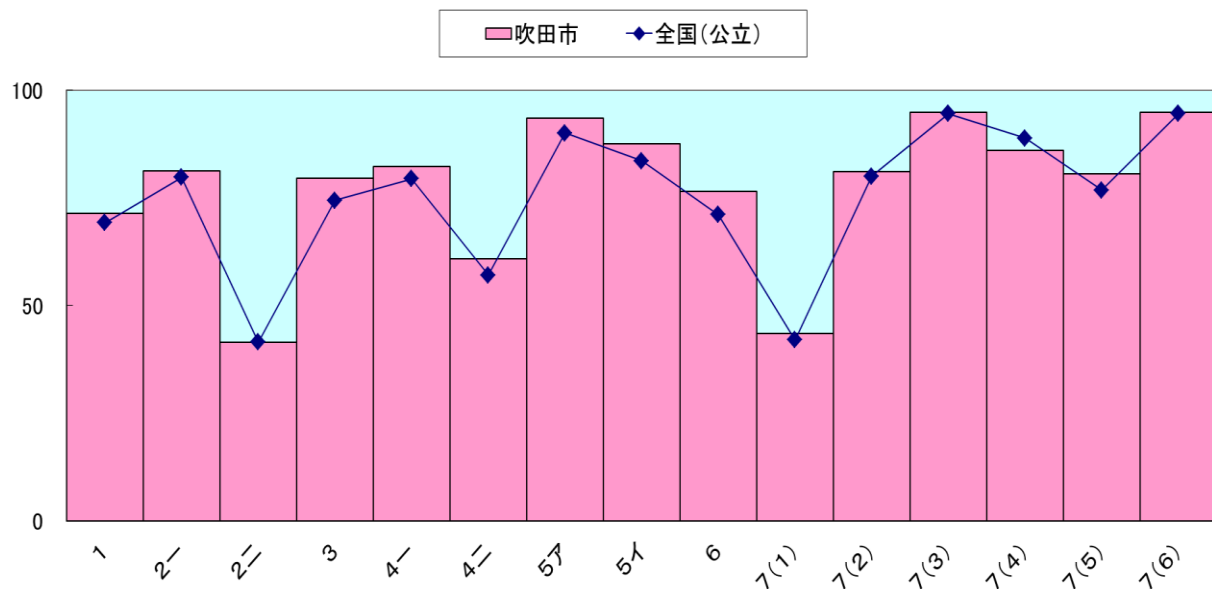
◇すべての設問について、正答率は全国平均を上回る結果であった。

設問番号	設問の概要	領 学 の 習 区 指 分 導 等 要	正 答 率		全 国 と の 関 係 (正 答 率)
			全 国	吹 田 市	
1ー	スピーチの練習の様子を記録した動画を見る目的として、適切なものを選択する	話す・聞く	77.2	81.8	○
1二	グループの話合いの中で、石田さんたちは、スピーチメモを使うことのよさについてどのように考えているかについて書く		69.2	76.2	◎
1三	折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話合いで出された意見を基に書く		48.4	49.8	—
1三	折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話合いで出された意見を基に書く	書く	48.4	49.8	—
2ー	【緑のカーテン作りへの協力をお願い】における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する		70.8	76.3	◎
2二	【友達の考え】と同じ考えの人を説得するために引用する文章を、【『緑のカーテンを始めよう』の一部】から選択する		70.9	74.6	○
2三	「水やりに協力してくれる人をぼ集めます」の[イ]に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く		33.0	37.3	○
3三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く	読む	43.7	43.2	—
3ー	「きつねの写真」を読み、登場人物の相互関係と場面についての描写を捉え、[A]に当てはまる言葉として適切なものを選択する		75.9	77.4	—
3二	「きつねの写真」を読んだあとの話合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する		28.0	31.5	○
3三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く		43.7	43.2	—

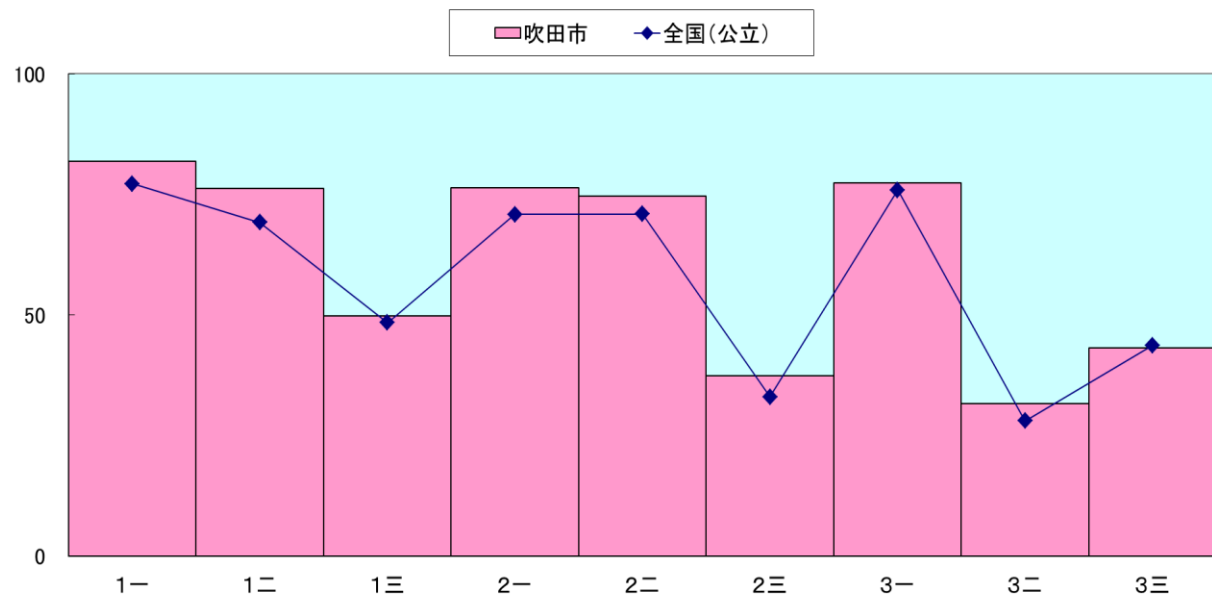
※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の正答率を5ポイント以上上回る	◎
全国の正答率を2～4.9ポイント上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2ポイント未満)	—
全国の正答率を2～4.9ポイント下回る	△
全国の正答率を5ポイント以上下回る	×

小学校国語A問題(設問別正答率)



小学校国語B問題(設問別正答率)



【課題の見られる設問について】

●設問番号

国語 B 2・3

●設問の概要

目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことができるかどうかを見る。

本設問は、中学生からの【アドバイス】を基にして、水やりに協力してくれる人を募集する文章を書く場面が設定となっている。ここでは【アドバイス】から水やりが大変な理由を捉えた上で、その理由を取り上げて協力を依頼することができるように書くことが求められている。

●課題とその改善を図るために

吹田市（カッコ内は全国値）

正答率 37.3%（33.0%）

無解答率 2.0%（2.8%）

目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことに課題がある。

〈正答について〉

① 文章の目的をとらえる

本依頼文は、「夏までに大きな緑のカーテンを作るために、多くの人の協力が必要であることを伝える」という目的で書かれていることを踏まえる必要がある。

② アドバイスの要点をつかむ

アドバイスの文章の構成から、水やりの大変さを中学生はどのように捉えているのか、大変さの具体例として、2点あげられている（接続詞「まず、それから」）ことを理解する必要がある。

③ 条件を理解する

なぜなら～に続く文章であることより【根拠】を述べる文章になること、

【お願い】にふさわしい文体になっていること、文字の制限があること、などを理解する必要がある。「たくさんの植木鉢に水をやること」を取り上げて書くことができていない。具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）（「なぜなら、」以下、この書き出しの言葉は省略する。）毎朝水をあげないとすぐにかれてしまうからです。朝水やりをわすれるとしおれかけることもあるからです。（54字）

また、「【緑のカーテン作りへの協力のお願い】にふさわしい表現」で書くことができていない具体的な例としては、以下のようなものがある。（例）毎朝水やりをしないとすぐにかれてしまうし、昼に行ったらしおれてしまっていたからです。（49字）

〈指導にあたって〉

一つ目の理由「毎朝水をやらなければならないこと」は条件に入れられても、二つ目の理由「たくさんの植木鉢に水をやらなければならないこと」を落としていることが多い。日頃の学習において、内容に注視するのではなく、文章の構成に目を向け、要点、書き手の言いたいことを常に要約する意識を持たせるように指導を行う必要がある。

【アドバイス】

去年、わたしたちも緑のカーテンを作ったよ。おかげですずしい夏が過ごせたんだ。でも、水やりがとても大変だったなあ。

まず、毎朝水をやらないとすぐにかれてしまうんだ。朝、水やりをわすれて、昼休みにあわてて見に行ったらしおれかけていたこともあったよ。

それから、大きな緑のカーテンを作るためには、たくさんの植木鉢に水をやる必要があるんだ。植木鉢の数はどのくらい大きな緑のカーテンを作るかで変わってくるよ。

水やりは大変だったけれど、すずしい夏が過ごせて、みんなも喜んでくれて本当にうれしかったなあ。

何かこまったことがあったらいつでも相談にのるよ。がんばって作ってね。



水やりに協力してくれる人を募集します

大きな緑のカーテンを作るためには水やりが大切です。しかし、水やりはとても大変です。なぜなら、

イ

このように水やりはとても大変なので、たくさんの人の協力が必要です。協力してくれる人はわたしたちに声をかけてください。ぜひいっしょに大きな緑のカーテンを完成させ、全校ですずしい夏を過ごしましょう。

三 森さんたちは、緑のカーテンを作ったことのある中学生からの「アドバイス」をもとに、「緑のカーテン作りへの協力のお願い」の「イ」の中を書いています。次の「イ」の中の内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【小学校 算数A】

◇すべての設問について、正答率は全国平均を上回る結果であった。

設問番号	設問の概要	学習指導要領 の区分等	正答率		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1 (1)	リボンを2m買ったときの代金と3m買ったときの代金を書く	数と計算	96.9	98.0	—
1 (2)	買ったリボンの長さ、1m当たりのリボンの値段と、代金、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ		69.9	77.6	◎
1 (3)	60×0.4 を、 60×4 を基にして考えるときの、正しい積の求め方を選ぶ		91.0	93.3	○
2 (1)	123×52 を計算する		85.2	87.4	○
2 (2)	$10.3 + 4$ を計算する		79.7	89.3	◎
2 (3)	$6 + 0.5 \times 2$ を計算する		66.6	70.9	○
2 (4)	$5 \div 9$ の商を分数で表す		69.2	71.0	—
3	8と12の最小公倍数を求める		86.2	88.0	—
4	重さ、長さについて任意単位による測定を基に比較しているものを選ぶ	量と測定	70.7	78.4	◎
5	示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ		67.0	74.8	◎
6	円を使って正五角形をかくとき、円の中心のまわりの角を何度ずつに分割すればよいかを書く	図形	75.5	81.1	◎
7	立方体の展開図から、示された面と平行な面を選ぶ		86.7	91.0	○
1 (1)	リボンを2m買ったときの代金と3m買ったときの代金を書く	数量関係	96.9	98.0	—
2 (3)	$6 + 0.5 \times 2$ を計算する		66.6	70.9	○
8	はじめに持っていたシールの枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ		83.6	88.8	◎
9 (1)	出席番号1番の人は二次元表のどこに入るかを選ぶ		88.0	92.2	○
9 (2)	二次元表の合計欄に入る数を書く		62.8	65.1	○

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の前答率を5ポイント以上上回る	◎
全国の前答率を2～4.9ポイント上回る	○
全国の前答率とほぼ同じ(±2ポイント未満)	—
全国の前答率を2～4.9ポイント下回る	△
全国の前答率を5ポイント以上下回る	×

【小学校 算数B】

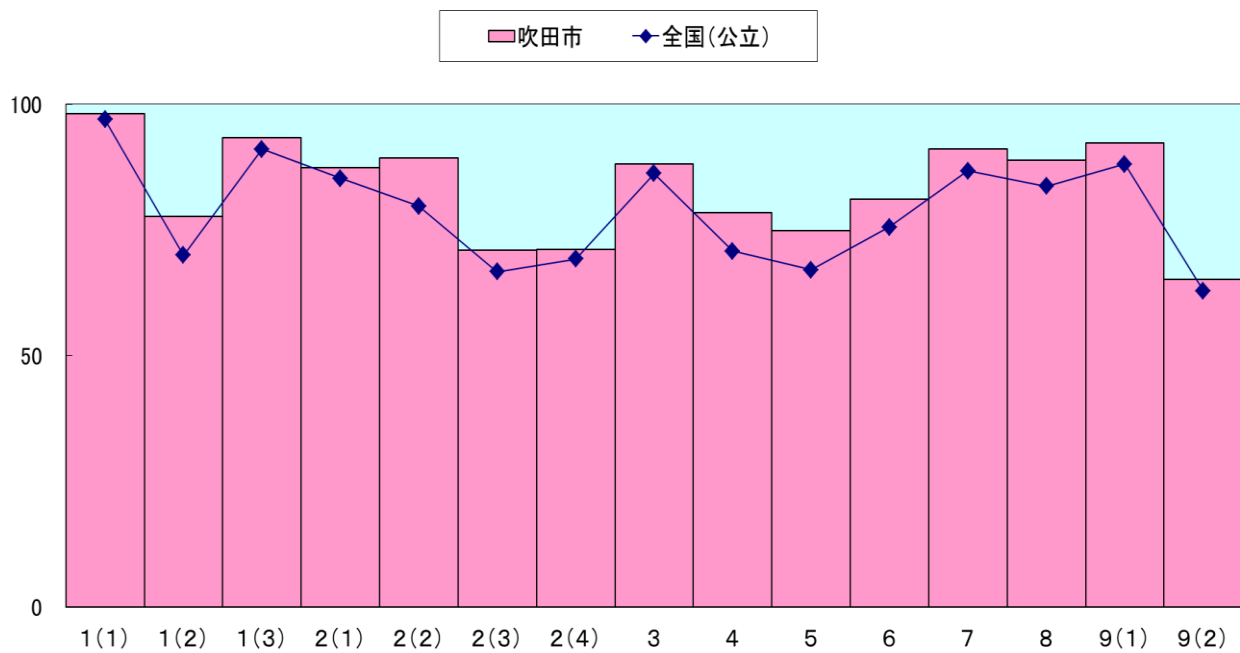
◇すべての設問について、正答率は全国平均を上回る結果であった。

設問番号	設問の概要	学習指導要領 の区分等	正答率		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1 (1)	カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式と答えを書く	数と計算	76.0	82.2	◎
1 (2)	示された考えを基に、54－45の場合で残る部分を図に表す		81.8	87.1	◎
1 (3)	2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く		38.6	45.1	◎
2 (1)	小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを書く		40.4	48.8	◎
2 (2)	13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く		27.4	32.1	○
3 (1)	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ	量と測定	67.9	75.1	◎
3 (2)	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める		26.1	30.3	○
5 (2)	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く	図形	13.2	18.4	◎
1 (3)	2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く	数量関係	38.6	45.1	◎
2 (1)	小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを書く		40.4	48.8	◎
3 (1)	飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ		67.9	75.1	◎
4 (2)	学年全体の人数に対するハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数の割合を表しているグラフを選ぶ		29.3	32.9	○
5 (1)	「最小の満月の直径」の図に対して、「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選ぶ		65.0	69.7	○
5 (2)	与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く		13.2	18.4	◎

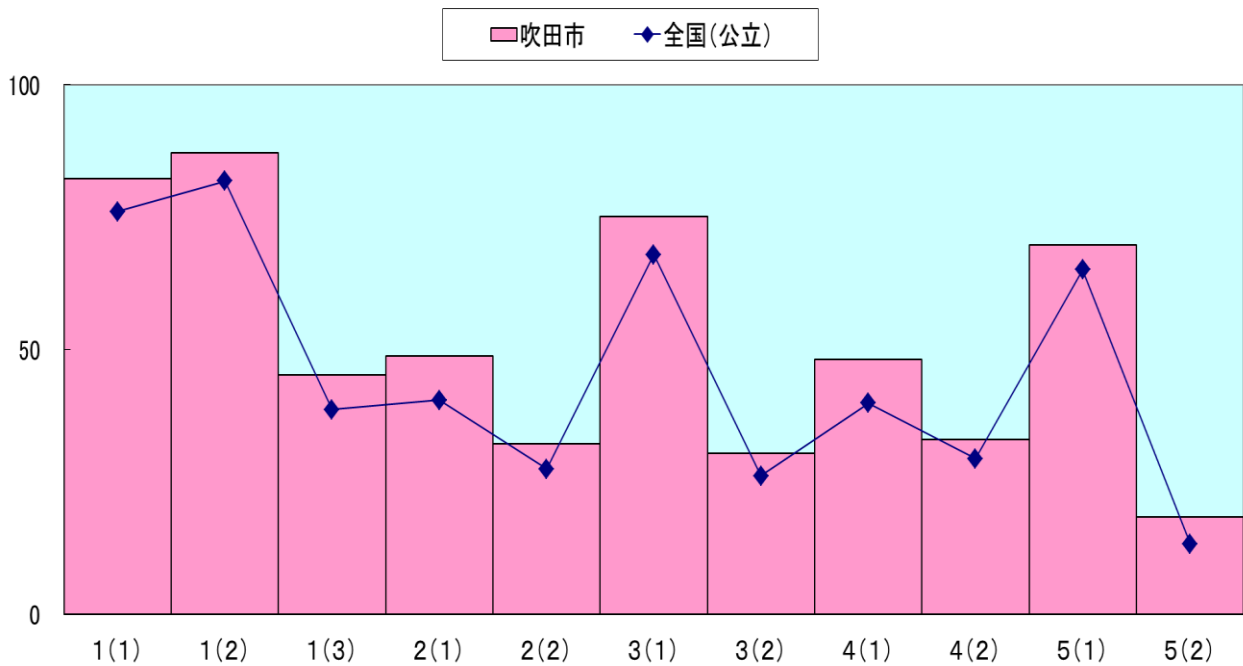
※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の前答率を5ポイント以上上回る	◎
全国の前答率を2～4.9ポイント上回る	○
全国の前答率とほぼ同じ(±2ポイント未満)	—
全国の前答率を2～4.9ポイント下回る	△
全国の前答率を5ポイント以上下回る	×

小学校算数A問題(設問別正答率)



小学校算数B問題(設問別正答率)



【課題の見られる設問について】

●設問番号

算数B・5（2）

●設問の概要

身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述できるかどうかをみる設問である。

出題の意図としては、日常生活の事象を割合を活用して数学的に解釈し、事柄を適切に判断したり、判断した理由を数学的に表現したりすることができるかどうかをみるものである。

月の直径を、硬貨の直径に置きかえて考えます。
 1円玉、100円玉、500円玉の直径は、それぞれ下のとおりです。

1円玉	100円玉	500円玉
		
20mm	22.6mm	26.5mm

(2) 「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は、100円玉と500円玉のどちらの直径に近いですか。
 下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。
 また、選んだ硬貨のほうが「最大の満月の直径」に近いと考えたわけを、言葉や式を使って書きましょう。

1 100円玉
 2 500円玉

●課題とその改善を図るために

本設問は、本市における正答率が18.4%、無解答率が8.8%であり、基準量と割合を基に判断し、その判断理由を記述することについて課題があると考えられる。

○割合の学習においては、問題場面から数量の関係を的確に捉えるために、数量の大小を考えたり、数量の関係を図に表したりすることで、基準量・比較量・割合の関係を明らかにし、正しく捉えることが大切である。そこで、次のように、日常生活の事象を割合を活用して数学的に解釈したり、事柄を適切に判断し、その理由を数学的に表現したりする学習を充実させることが重要である。

○示された情報と場面から、基準量と比較量を捉えることができれば割合を求めることができる。同様に、基準量と割合を捉えることができれば比較量を、比較量と割合を捉えることができれば基準量を求めることができる。そのために、示された情報と場面を図や言葉などに表し、数量の関係を的確に捉えることが大切である。

○指導にあたっては、例えば、設問（2）を用いて、基準量、比較量、割合がそれぞれ何に当たるかを捉えるために、「最小の満月の直径」と「最大の満月の直径」の関係を表す図をかく活動が考えられる。また、選んだ硬貨の直径の方が近いと判断した理由を、数量の関係を表す図と、図から解釈できる演算に着目して説明する活動も考えられる。

◇ほとんどの設問について、正答率は全国平均を上回る結果であった。

設問番号	設問の概要	学習指導要領 の区分等	正答率		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
2一	スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する	話す・聞く	87.8	90.5	○
2二	スピーチの構成を説明したものとして適切なものを選択する		79.6	84.8	◎
7一	先生から必要な情報をもらうために適した発言に直す		54.0	60.5	◎
7二	結論にたどり着いた理由として適切なものを選択する		80.4	84.6	○
3一	それまでがんばってきた様子が読み手により伝わるように書き直す	書く	86.0	88.0	○
3二	一文を書き加える際に参考にした助言として適切なものを選択する		84.3	86.2	—
5一	〈立候補者から〉の欄の書き方を説明したものとして適切なものを選択する		79.8	83.2	○
5二	〈推薦者から〉の欄に書き加える具体例に使う情報として適切なものを選択する		92.7	94.4	—
4一	見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する	読む	81.0	86.7	◎
4二	文章について説明したものとして適切なものを選択する		72.9	76.5	○
6一	登場する人物を整理したものに当てはまる人物の組合せとして適切なものを選択する		74.8	81.4	◎
6二	「どれもこれも仁王を蔵しているのはなかった」の意味として適切なものを選択する		60.1	65.7	◎
8一	詩について説明したものとして適切なものを選択する		81.9	85.9	○
8二	二人の交流の様子について説明したものとして適切なものを選択する		72.3	75.4	○

1	画面に示された字幕についての説明として適切なものを選択する	言語事項	81.4	85.2	○
9-1	漢字を書く（組織の <u>キボ</u> を大きくする）		62.8	65.2	○
9-2	漢字を書く（雨で運動会が <u>エンキ</u> になる）		62.3	71.1	◎
9-3	漢字を書く（店を <u>イトナ</u> む）		85.4	91.1	◎
9-1	漢字を読む（ <u>覚悟</u> を決める）		98.7	99.2	—
9-2	漢字を読む（ <u>鮮</u> やかな色合い）		94.5	93.3	—
9-3	漢字を読む（水が <u>垂</u> れる）		94.3	95.9	—
9-3ア	適切な語句を選択する（ <u>えり</u> を正して話を聞く）		76.9	69.1	△
9-3イ	適切な語句を選択する（よい結果を早く出したいときは、 <u>急がば回れ</u> といわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ）		61.4	64.5	○
9-3ウ	適切な敬語を選択する（先生もこの書店をよく <u>ご利用</u> になるのですね）		85.7	87.6	—
9-3エ	適切な語句を選択する（私は映画が大好きです。 <u>ただし</u> 、映画なら何でも見るわけではありません）		95.5	96.7	—
9-3オ	適切な語句を選択する（チームの勝利を確 <u>信</u> する）		94.2	95.5	—
9-4	言い直した意図として適切なものを選択する		91.6	93.6	○
9-5	話合いの記録として適切な言葉を考える		35.8	41.1	◎
9-6-1	楷書と比較したときの行書の説明として適切なものを選択する		49.6	61.8	◎
9-6-2	行書で書かれた「和」の特徴の組合せとして適切なものを選択する		63.7	68.7	◎
9-7-1	「徒然草」の中の語句の訳を抜き出す（あやしう）		77.2	81.3	○
9-7-2	「徒然草」の作品の種類として適切なものを選択する		78.5	79.1	—

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の正答率を5ポイント以上上回る	◎
全国の正答率を2～4.9ポイント上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ（±2ポイント未満）	—
全国の正答率を2～4.9ポイント下回る	△
全国の正答率を5ポイント以上下回る	×

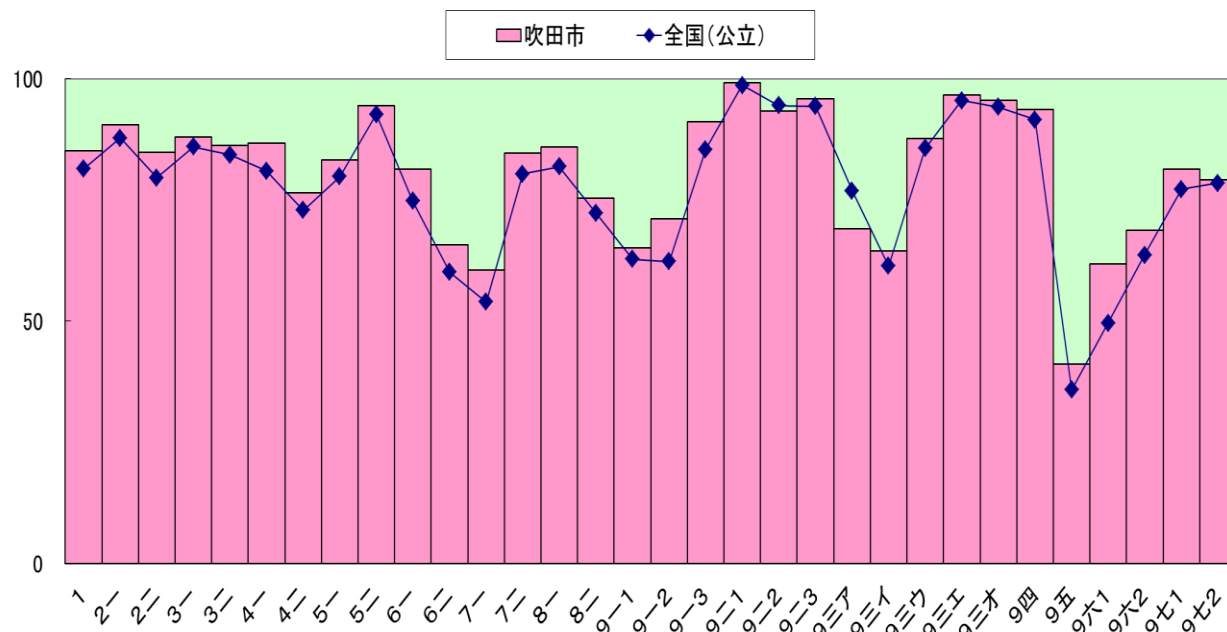
◇すべての設問について、正答率は全国平均を上回る結果であった。

設問 番号	設問の概要	学習指導要領 の区分等	正答率		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
2一	スピーチの中で実演を行った意図として適切なものを選択する	話す・聞く	85.4	88.5	○
2二	聞き手が話し手に伝えようとしていることとして適切なものを選択する		74.2	77.3	○
2三	スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す		57.6	62.2	○
1三	比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く	書く	41.4	48.7	◎
2三	スピーチの内容を聞き手からの意見に基づいて直す		57.6	62.2	○
3一	下書きについての説明として適切なものを選択する		75.3	81.2	◎
3三	アンケートをとる対象と質問内容、その質問についての回答を基にした内容を載せることで興味をもってもらえたと考えた理由を書く		68.8	73.2	○
1一	本の紹介カードに書かれている登場人物の様子が具体的に表現されている箇所として適切なものを選択する	読む	84.1	86.8	○
1二	地の文にある言葉を発した人物を文章の中から抜き出す		84.1	88.5	○
1三	比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く		41.4	48.7	◎
3二	太宰治と他の作家との関係を書き直したものとして適切なものを選択する		78.7	84.0	◎
1三	比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く	言語事項	68.8	73.2	○

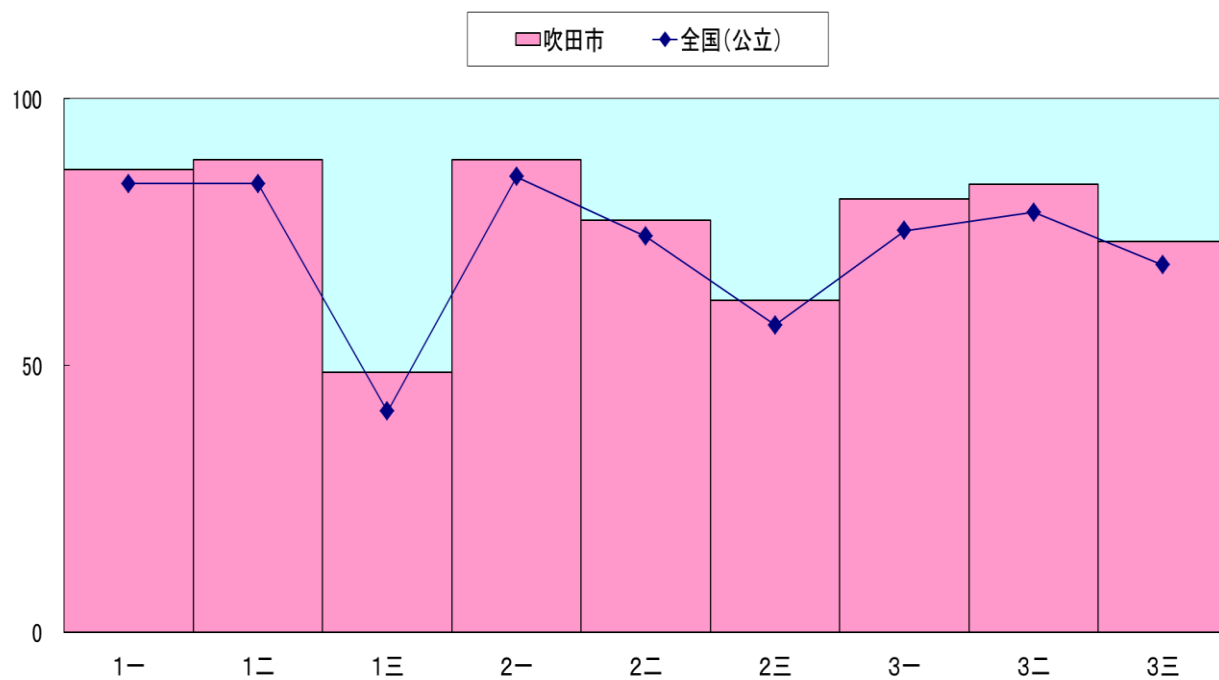
※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の前答率を5ポイント以上上回る	◎
全国の前答率を2～4.9ポイント上回る	○
全国の前答率とほぼ同じ(±2ポイント未満)	—
全国の前答率を2～4.9ポイント下回る	△
全国の前答率を5ポイント以上下回る	×

中学校国語A問題(設問別正答率)



中学校国語B問題(設問別正答率)



【課題の見られる設問について】

●設問番号

B・1 三

●設問の概要

本問は、宮下奈都の『スコーレ No. 4』の一部と本の紹介カードを取り上げ、登場人物の言動の意味を捉えたり、場面の展開や登場人物の描写に注意して内容を理解したりするとともに、表現の仕方について自分の考えを具体的に書くことを求めている設問である。

出題の趣旨としては、表現の仕方について捉え、自分の考えについて書くことができるかどうかをみるものである。

●課題とその改善を図るために

本設問は、本市における正答率が48.7%（全国正答率 38.6%）、無解答率が11.0%（全国無解答率14.3%）であり、根拠を明確にして感じたことや考えたことを書くこと、比喻などの技法についての知識を生かすことに課題があらとえられる。

- 文学的な文章を読んで、感じたことや考えたことを書く際には、なぜそのように感じたのか、文章のどこからそのように考えたかなどについて、根拠を明確にして書くことが大切である。その際、比喻や反復などの表現の技法についての知識を生かすなどこれまでの学習を踏まえるように指導することが重要である。例えば、文章を読んで心に残った言葉や文、感想などをノートに書き留めておき、それを基にしてペアやグループで交流する学習活動が考えられる。また、図書館便りや本のポップ、書評などから得た情報を参考にして、自ら読書を進めていくことができるように指導することも大切である。

○具体的な学習活動

新聞のコラムや社説を読む

- ・新聞のコラムや社説を読み、授業者の提示したテーマや条件に正対して文章をまとめる。
- ・他の生徒との交流をしたのち、自分の文章を完成させる。

ポイント

必要な情報を過不足なく書けているか。

伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように工夫されているか。

内容や表現の仕方について感想を交流できているか。

他の生徒との交流を通して、文章を推敲することができているか。

三 青山さんは、『本の紹介カード』にある「比喻を用いた表現」に着目して『本の一部』を読み、感じたことや考えたことなどをあとの『読書の記録』に書いています。あなたなら『読書の記録』の〈心に残った一文〉と〈感想〉にどのようなことを書きま
すか。次の条件1と条件2にしたがつて書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 〈心に残った一文〉は、『本の一部』から、比喻を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。
条件2 〈感想〉は、条件1で取り上げた表現について、『誰（何）の、どのような』様子なのかを明確にした上で、あなたが
感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

【中学校 数学A】

◇すべての設問について、正答率は全国平均を上回り、概ね良好な結果であった。

設問番号	設問の概要	学習指導要領の区分等	正答率		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
1 (1)	$\frac{5}{9} \times \frac{2}{3}$ を計算する	数と式	87.1	91.6	○
1 (2)	a と b が負の数のときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ		69.3	81.6	◎
1 (3)	$10 - 6 \div (-2)$ を計算する		75.6	85.2	◎
1 (4)	3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す		89.4	93.1	○
2 (1)	5mの重さが a g の針金の1mの重さを、 a を用いた式で表す		56.3	66.8	◎
2 (2)	$100 - 20a = b$ の式が表される場面を選ぶ		75.4	81.6	◎
2 (3)	$(2x + 5y) - (6x - 3y)$ を計算する		78.5	87.2	◎
2 (4)	等式 $x + 4y = 1$ を y について解く		56.1	70.0	◎
3 (1)	一元一次方程式 $4x = 7x + 15$ を解く		82.7	90.5	◎
3 (2)	数量の関係を一元一次方程式で表す		52.8	62.1	◎
3 (3)	$x + y = 2$ の解の意味について選ぶ		59.6	68.9	◎
3 (4)	連立二元一次方程式 $\begin{cases} x + y = 5 \\ \frac{x}{6} + \frac{y}{3} = 1 \end{cases}$ を解く		62.2	75.5	◎
4 (1)	角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ	図形	67.4	74.9	◎
4 (2)	$\triangle ABC$ を、点Aから点Pに移すように平行移動した図形をかく		90.6	93.9	○
4 (3)	半径が5cm、中心角が 120° の扇形の弧の長さを求める		30.7	42.3	◎
5 (1)	直方体において、与えられた辺に平行な面を書く		67.0	76.4	◎
5 (2)	1回転させると円錐ができる平面図形として正しいものを選ぶ		90.1	93.1	○
5 (3)	立方体の見取図を読み取り、2つの線分の長さの関係について、正しい記述を選ぶ		80.2	84.5	○
5 (4)	円柱の体積を求める		51.8	66.3	◎
6 (1)	錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ		43.1	59.7	◎
6 (2)	n 角形の1つの頂点からひいた対角線によって分けられる三角形の数を選ぶ		69.4	72.4	○

7 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	図形	78.6	87.3	◎
7 (2)	与えられた方法で作図された四角形が、いつでも平行四辺形になることの根拠となる事柄を選ぶ		49.1	57.3	◎
8	事柄「 $\angle ABD = \angle CBD$, $\angle ADB = \angle CDB$ ならば, $AB = CB$ である。」の仮定をすべて書く		74.3	81.3	◎
9	長方形の縦の長さとの面積の関係を, 「…は…の関数である」という形で表現する	関数	20.6	28.1	◎
10 (2)	比例 $y = 4x$ について, x の値が3のときの y の値を求める		84.6	90.8	◎
10 (2)	比例のグラフから式を求める		57.1	68.5	◎
10 (3)	反比例の表から比例定数を求める		34.4	46.7	◎
11 (1)	一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に, 式で表すことができる		75.9	83.9	◎
11 (2)	変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ		56.0	64.1	◎
12	線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフを基に, 2cm 燃えるときの時間を選ぶ		67.6	74.6	◎
13	二元一次方程式が表すグラフを選ぶ		63.0	68.7	◎
14 (1)	反復横とびの記録の範囲を求める	資料の活用	28.6	31.7	○
14 (2)	6月1日から30日までの記録を表した度数分布表から, ある階級の相対度数を求める		45.5	57.0	◎
15 (1)	さいころを投げるときに「同様に確からしい」ことについての正しい記述を選ぶ		78.0	86.1	◎
15 (2)	赤玉3個, 白玉2個の中から玉を1個取り出すとき, その玉が赤玉である確率を求める		78.3	83.8	◎

※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の正答率を5ポイント以上上回る	◎
全国の正答率を2～4.9ポイント上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ（±2ポイント未満）	—
全国の正答率を2～4.9ポイント下回る	△
全国の正答率を5ポイント以下下回る	×

【中学校 数学B】

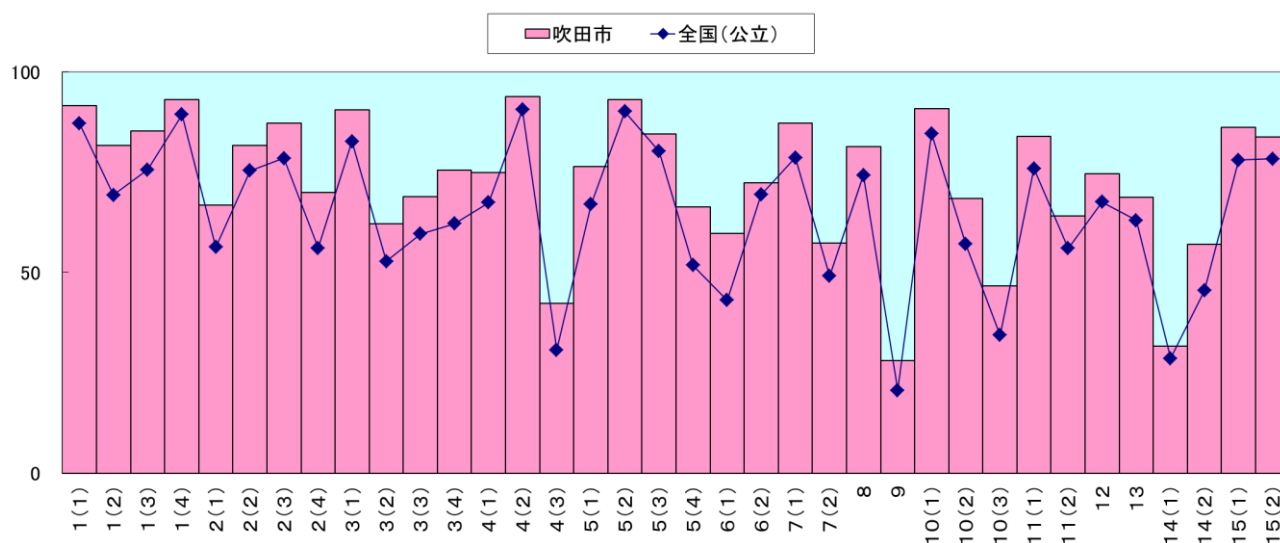
◇ほとんどの設問について、正答率は全国平均を上回る結果であった。

設問番号	設問の概要	学習指導要領 の区分等	正答率		全国との関係 (正答率)
			全国	吹田市	
2 (1)	六角形を5個つくるのに必要なストローの本数を求める	数と式	80.4	85.2	○
2 (2)	六角形を n 個並べて6本ずつ囲んだときに、2回数えているストローを n を用いた式で表す		44.1	54.0	◎
2 (3)	六角形を n 個つくるのに必要なストローの本数を、 $6 + 5(n - 1)$ という式で求めることができる理由を説明する		14.5	22.5	◎
1 (1)	隣り合う4枚の正三角形の真ん中の1枚をある模様としたときに、残りの3枚にできる模様を選ぶ	図形	67.5	69.2	—
1 (2)	四角形 $ABCD$ の模様が1回の回転移動によって四角形 $BEFG$ の模様に重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する		14.0	21.3	◎
1 (3)	与えられた模様となるような万華鏡を作りたいときに、その基となる正三角形の模様を選ぶ		52.8	56.3	○
4 (1)	2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する		44.1	57.9	◎
4 (2)	$\angle BAD$ と $\angle CBE$ が 20° のとき、 $\angle BEA$ の大きさを求める		60.0	71.8	◎
4 (3)	点 D と点 E を $BD = CE$ の関係を保ったまま動かしたとき、 $\angle BFD$ の大きさについて、正しい記述を選ぶ		44.5	49.4	○
5 (1)	1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める		79.3	82.5	○
3 (1)	与えられた表やグラフから、5月31日から4日経過したときに貯水量が2820万 m^3 であったことを表す点を求める	関数	90.8	93.0	○
3 (2)	与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万 m^3 になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する		18.4	23.2	○
3 (3)	与えられた式から、 a の変域に対応する b の変域を求める		43.2	58.7	◎
5 (1)	1週間の総運動時間が420分のとき、含まれる階級の度数を求める	資料の活用	79.3	82.5	○
5 (2)	全校生徒の女子の中で、若菜さんの1週間の総運動時間が長い方かどうかを判断するための根拠となる値として適切なものを選ぶ		50.3	53.1	○
5 (3)	「420分未満より420分以上の女子の方が、合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する		17.6	19.3	—

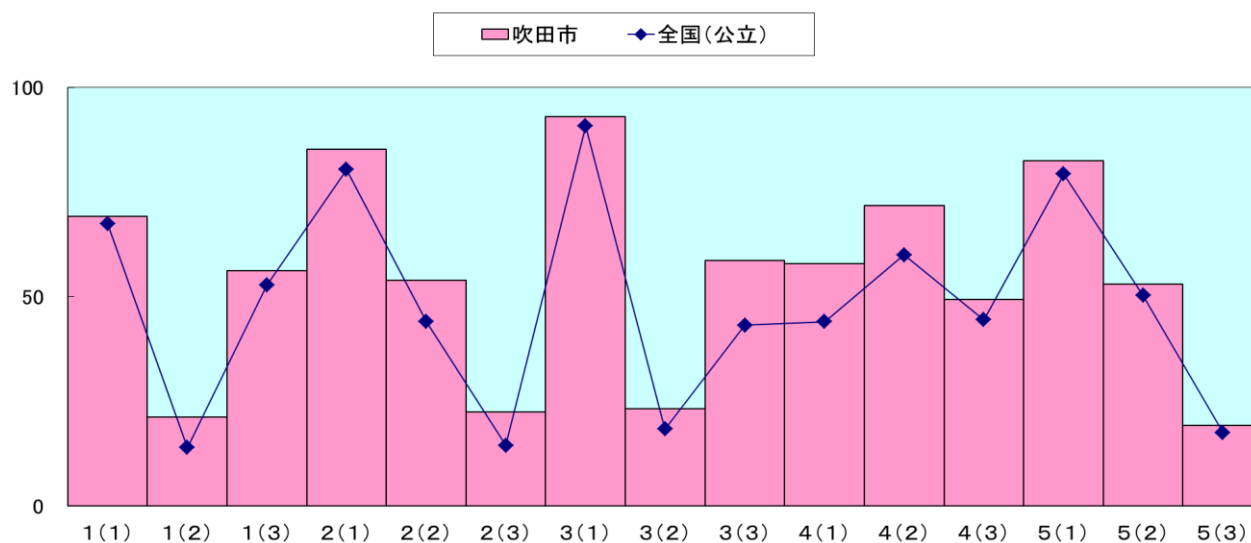
※全国との関係を表す記号は、下記の基準により記されている。

全国の正答率を5ポイント以上上回る	◎
全国の正答率を2～4.9ポイント上回る	○
全国の正答率とほぼ同じ(±2ポイント未満)	—
全国の正答率を2～4.9ポイント下回る	△
全国の正答率を5ポイント以上下回る	×

中学校数学A問題(設問別正答率)



中学校数学B問題(設問別正答率)



【課題の見られる設問について】

●設問番号

B・5 (3)

●設問の概要

資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。

●課題とその改善を図るために

吹田市 (かつこ内は全国値)

正答率 19.3% (17.6%)

無解答率 28.2% (31.2%)

<現行学習指導要領>

第1学年「資料の活用」領域(1)イ

ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえ説明すること

<次期学習指導要領>

統計的な内容等の改善・充実は、小学校算数、中学校数学に共通した主な変更点となっている。

次期学習指導要領解説の中では、統計を「情報社会における必須のツール」と考え、小中を通して、段階的に系統立った指導を行うことが書かれており、具体的な指導例が示されている。

授業の課題設定にあたっては、統計的な問題解決の結果を安易に受け取るのではなく、様々な視点から多角的に吟味することや自分たちの問題解決の過程を批判的に検討することについても書かれており、より信頼性や妥当性のある結論を導き、数学的な表現を用いて説明する活動場面の設定が求められる。

本設問においては、「資料の傾向を的確に捉えること」ができたうえで、「数学的な表現を用いて説明する」ことが求められている。度数分布多角形を平面的に考察するのではなく、縦軸のみに着目したり、ある点のみを比較したりする。また、的確に判断できていても、それをどう説明すればよいのかと戸惑ってしまうなどが、正答率の低さや無解答率の高さにつながったと考えられる。

●改善を図るための具体的な方策

<統計的処理の基礎知識の獲得>

本設問では、総度数の違う2つの資料を比較する際、相対度数を活用している。相対度数を活用することで、各階級ごとの比較が可能になる。また、相対度数を使った度数分布多角形を作成することで、2つの資料の分布の特徴を視覚的に捉えることができる。このように、資料を分析・比較する際には、目的にあった処理をする必要があり、中学校で学習する統計的処理それぞれの利点をしっかり理解することが重要である。

<場面の設定>

資料を収集・整理し、傾向を捉えて説明する授業は、比較的多く実践されている。この一連の活動それぞれに、その過程を振り返る場面を設定することが今後重要である。「他の資料が必要ではないか」「別の整理の仕方をすれば見え方が変わるのでは」「この説明で納得を得られるだろうか」など、学びへの問い直しの場面を、グループ学習などを活用しながら経験させることが重要である。

【例】 次期中学校学習指導要領解説 数学編 p.88～p.96

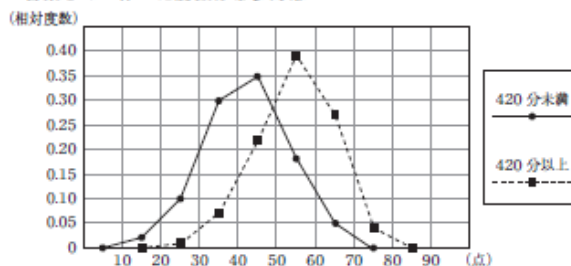
- 5 体育委員会は、全校生徒の体力向上のために、1週間で420分(1日あたり60分)運動することを目標にしようと考えています。そこで、体育委員会では、全校生徒の1週間の総運動時間を調べるアンケートを実施しました。

(3) 若菜さんは、1週間の総運動時間が420分未満と420分以上の女子では、体力テストの合計点に違いがあるのではないかと考えました。そこで、420分未満と420分以上の女子で分けて、体力テストの合計点をまとめた度数分布表をもとに、相対度数を求め、相対度数の度数分布多角形(度数折れ線)に表しました。

体力テストの合計点の度数分布表

階級(点)	420分未満		420分以上	
	度数(人)	相対度数	度数(人)	相対度数
以上 未満				
10～20	1	0.02	0	0.00
20～30	6	0.10	1	0.01
30～40	18	0.30	6	0.07
40～50	21	0.35	19	0.22
50～60	11	0.18	33	0.39
60～70	3	0.05	23	0.27
70～80	0	0.00	3	0.04
合計	60	1.00	85	1.00

若菜さんが作った度数分布多角形



若菜さんが作った度数分布多角形から、「1週間の総運動時間が420分以上の女子は、420分未満の女子より体力テストの合計点が高い傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、若菜さんが作った度数分布多角形の2つの度数分布多角形の特徴を比較して説明しなさい。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査結果

【分析グラフの見方について】

- ①「している（当てはまる）」「どちらかといえばしている（当てはまる）」を合わせたものを「肯定的回答群」としている。
「あまりしていない（どちらかといえば）当てはまらない」「全くしていない（当てはまらない）」を合わせたものを「否定的回答群」としている。
- ②「H28（27、21）吹田」「H28全国」は、前回調査「平成28（27、21）年度全国学力・学習状況調査」における児童・生徒質問紙の調査結果を掲載したものである。（本調査と同一の質問項目がある場合のみ）
- ③平成21年度の調査結果を掲載しているのは、本市における小中一貫教育を基盤とする「総合的人間力」の育成に係る教育施策の効果を検証するためである。

（1）自分自身のことについて

現状及び経年変化

- ◇自尊感情は、平成21年度と比較すると小・中学生ともに向上しており、特に中学生は全国値よりも高く、大幅に向上している。
- ◇将来の夢や目標を持っている割合は、中学生で平成21年度と比較して約2%向上しているものの、小・中学校とも前年度より低下しており、中学生は全国値よりも低くなっている。
- ◇「人の役に立つ人間になりたい」について肯定的な回答をしている割合は平成21年度と比較して、小・中学生ともに向上し、全国値よりも上回っているが、前年度を下回っている。また、いじめはいけないことであるという意識も平成21年度と比較して、小・中学生ともに向上しているが、中学生は全国値よりも下回っている。

改善・向上のために

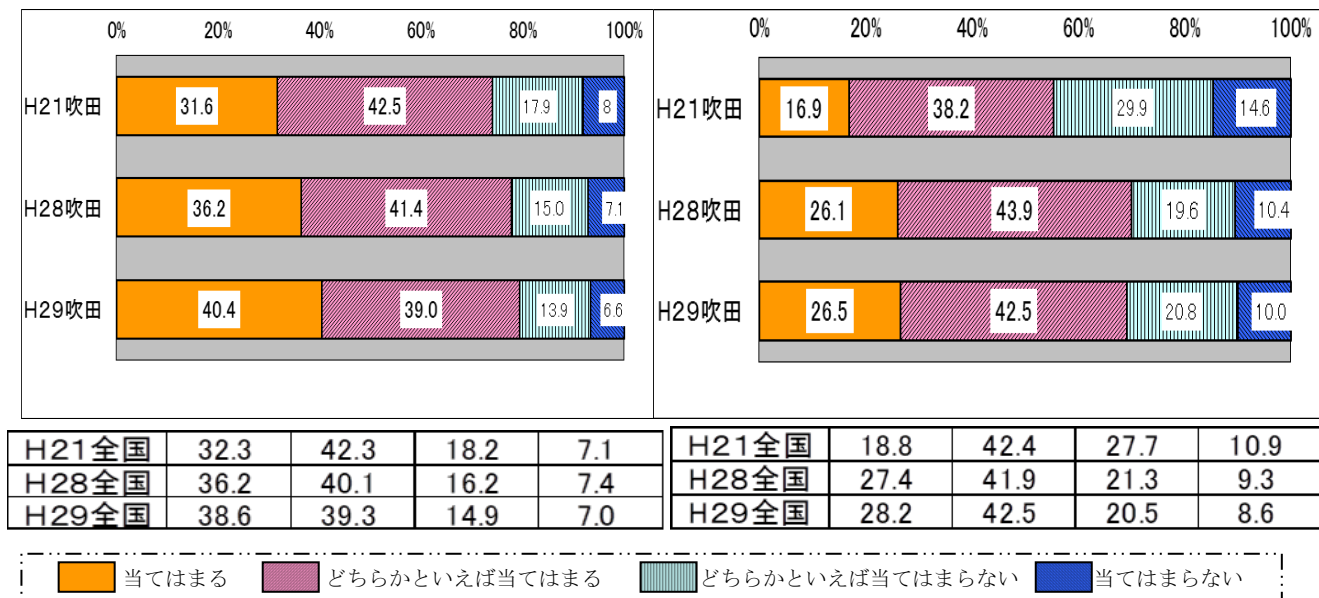
- ◆学校
 - ・個々の子供理解に努め、日々の生活の中で一人ひとりの良いところを認める言葉かけ等をおこなうとともに、それぞれの良さが発揮できるような役割や場を学校生活の中で意図的に作ることで自己有用感、自尊感情を育む。
 - ・幼小中一貫教育を踏まえたキャリア教育の系統的、継続的な取組を推進し、将来に対する目的意識や展望を育む。
 - ・道徳教育、特別活動、総合的な学習の時間をはじめ、各教科学習等や学校行事など様々な教育活動において、子供同士が関わり、協力し合う場面を設定するとともに、それぞれの良さを子供たち自身が感じられる指導を日常的に行う。
- ◆家庭
 - ・子供自身が主体的に活躍できる役割を家庭の中で与えたり、場を設けたりし、積極的に子供の行動を認め、褒めることで日々自己有用感、自尊感情を育む。

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：79.4%（全国比+1.5%、前回比+1.8%、H21比+5.3%）
 中学生：69.0%（全国比-1.7%、前回比-1.0%、H21比+13.9%）

〔小学校〕

〔中学校〕

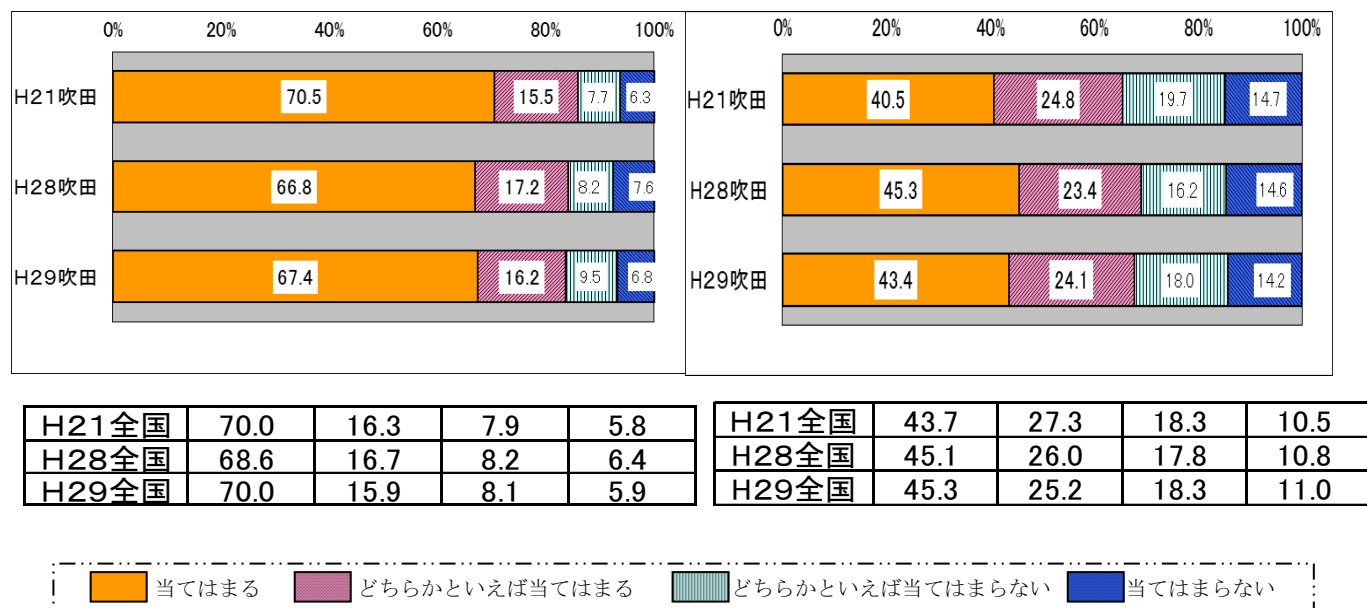


Q：将来の夢や目標を持っていますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：83.6%（全国比-2.3%、前回比-0.4%、H21比-2.4%）
 中学生：67.5%（全国比-3.0%、前回比-1.2%、H21比+2.2%）

〔小学校〕

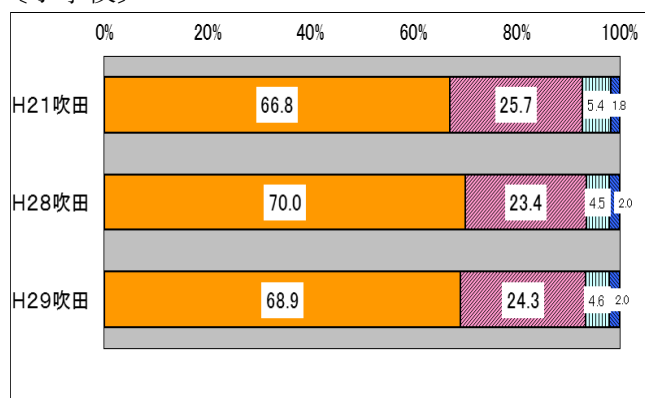
〔中学校〕



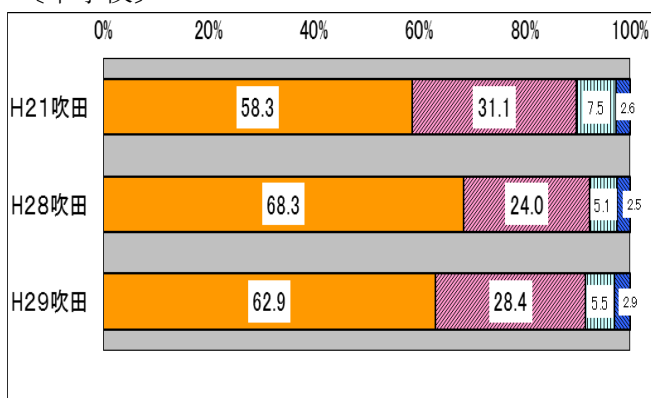
Q：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：93.2%（全国比+0.7%、前回比-0.2%、H21比+0.7%）
 中学生：91.3%（全国比-3.2%、前回比-1.0%、H21比+1.9%）

〔小学校〕

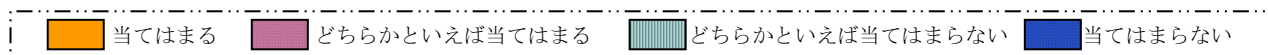


〔中学校〕



H21全国	67.6	24.9	5.4	1.9
H28全国	71.2	22.6	4.2	1.9
H29全国	68.0	24.5	5.1	2.2

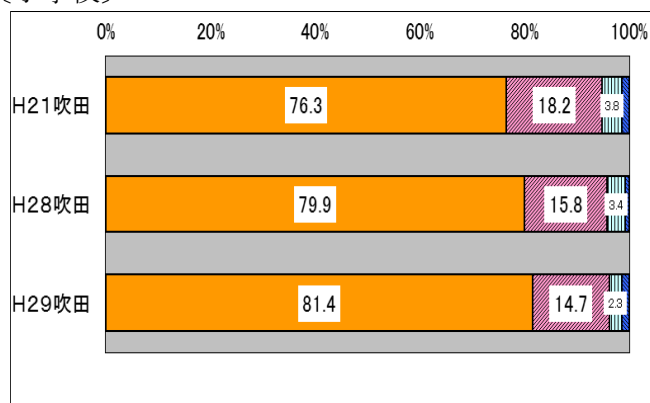
H21全国	61.5	28.9	6.7	2.6
H28全国	69.3	23.5	4.8	2.3
H29全国	66.1	25.8	5.3	2.5



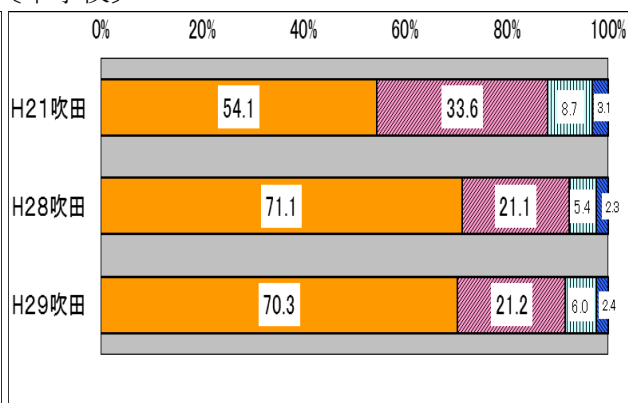
Q：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：96.1%（全国比±0.0%、前回比+0.4%、H21比+1.6%）
 中学生：91.5%（全国比-1.3%、前回比-0.7%、H21比+3.8%）

〔小学校〕

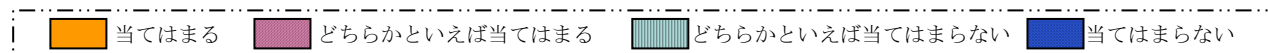


〔中学校〕



H21全国	76.6	18.3	3.7	1.3
H28全国	83.1	13.5	2.4	1.0
H29全国	81.2	14.9	2.7	1.1

H21全国	61.9	28.4	7.2	2.3
H28全国	74.8	18.8	4.5	1.9
H29全国	73.3	19.5	4.9	2.2



(2) 家庭生活について

現状及び経年変化

- ◇「朝食を毎日食べていますか」に対する今年度の肯定的回答率は、小学生は前回調査及び全国値より下回っている。中学生は前回調査より下回っているが、全国値をやや上回っている。また、この質問に対し、肯定的な回答をしている児童・生徒の方が、教科における調査の正答率が高くなる傾向にある。
- ◇携帯電話・スマートフォンの所有率は、小・中学生ともに全国値よりも高く、通話等を行う時間が小学生は全国値よりも多い。
- ◇ゲームを行う時間は、小・中学生ともに全国値より短い。しかし1日1時間未満の割合は平成28年度よりも減少している。平成21年度と比較して、特に中学生の1日1時間未満の割合は大幅に減っている。
- ◇「自分で計画を立てて勉強していますか」に対して、小・中学生とも全国値よりは低いが、前回調査より上回っている。特に、小学生の前回比からの伸びが見られる。また、この質問に対して肯定的な回答をしている児童・生徒は各教科の正答率が高い傾向にある。
- ◇「授業の予習・復習」については、小・中学生とも全国値より低く、特に復習をしないと回答している児童・生徒の割合が多いことに課題が見られる。
- ◇「新聞を読みますか」に対する肯定的回答率は、小学生は下回っているが、中学生は全国値より上回っている。「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」に対する肯定的回答率は、小・中学生とも平成27年度より上回っているが、全国値や前回調査より下回っている。また、この質問に対して肯定的に回答している児童・生徒は各教科の正答率が高い傾向にある。
- ◇読書について、「全くしていない」と回答している割合は、平成21年度と比較すると減少しているものの、特に中学生は全国値より高く、小学生は全国値と同じである。

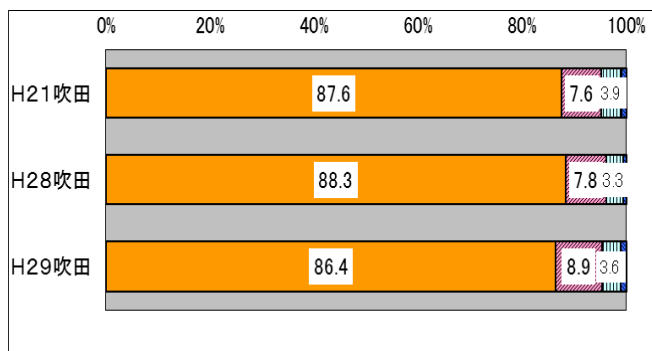
改善・向上のために

- ◆学校
 - ・日々の授業の中で児童・生徒の学習習慣の確立や主体的に取り組む態度を育成するとともに、保護者や地域との連携をさらに図る。
 - ・担任や教科担当教員が、それぞれの教科、領域に関わる社会の動きや時事問題を話題にし、興味関心を持たせるようにするとともに、教科連携も図る。
 - ・読書習慣の定着のために、授業内容と関わる本を紹介したり、すぐに手に取れるよう教室に置いたりする。また、読書活動支援者の活用を進め、学校図書館の充実を図る。
- ◆家庭
 - ・朝食の習慣化。
 - ・携帯電話・スマートフォンの使用については、子供とよく話し合い、最終的にはできるだけ子供自身が主体的にルールを決められるようにする。
 - ・家庭学習についても、家庭生活の時間の使い方を話し合う中で、最終的には子供自身が取り組み方法について主体的に決められるようにする。
 - ・社会の動きに関心を持てるよう、テレビのニュースを家族で見たり、時事問題を話題に家族で話したりする。
 - ・読書習慣の定着については、読書の楽しさ・面白さを家庭で共有し、保護者が率先して家庭において本を読む姿を見せる等、モデルを示す。

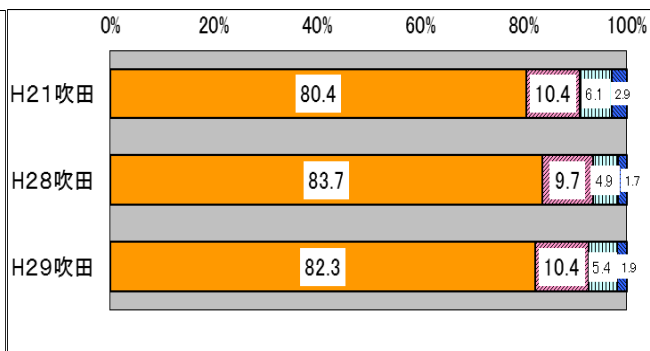
Q：朝食を毎日食べていますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：95.3%（全国比－0.1%、前回比－0.8%、H21比＋0.1%）
中学生：92.7%（全国比＋0.1%、前回比－0.5%、H21比＋1.9%）

〔小学校〕

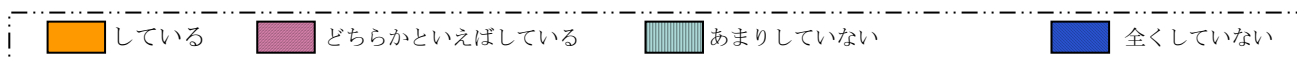


〔中学校〕



H21全国	88.5	7.5	3.2	0.7
H28全国	87.3	8.2	3.5	0.9
H29全国	87.0	8.4	3.7	0.9

H21全国	82.2	10.2	5.3	2.1
H28全国	83.8	9.7	4.7	1.9
H29全国	82.7	10.5	4.9	1.9



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）			
		国語A	国語B	算数A	算数B
1	している	78.3	62.6	84.6	53.2
2	どちらかといえばしている	70.7	52.9	75.8	45.3
3	あまりしていない	66.6	48.5	73.2	40.0
4	全くしていない	63.5	39.5	63.1	30.7

〔中学校〕

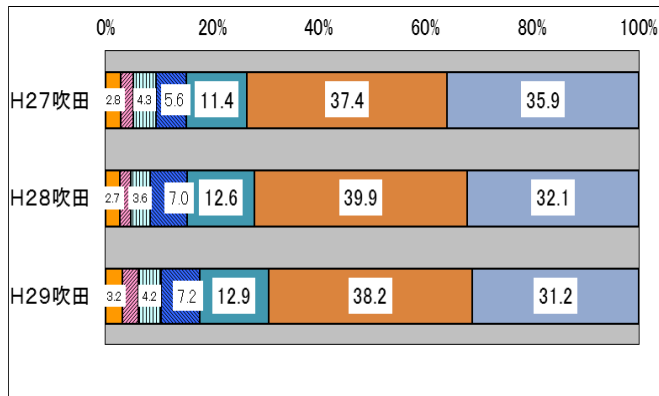
選択肢		平均正答率（％）			
		国語A	国語B	数学A	数学B
1	している	82.0	78.5	75.4	56.5
2	どちらかといえばしている	76.2	70.1	63.9	46.4
3	あまりしていない	74.3	68.5	60.7	45.8
4	全くしていない	68.5	59.5	54.0	34.9

Q：普段（月曜～金曜）、どれくらいの時間携帯電話・スマートフォンで通話等をしますか。

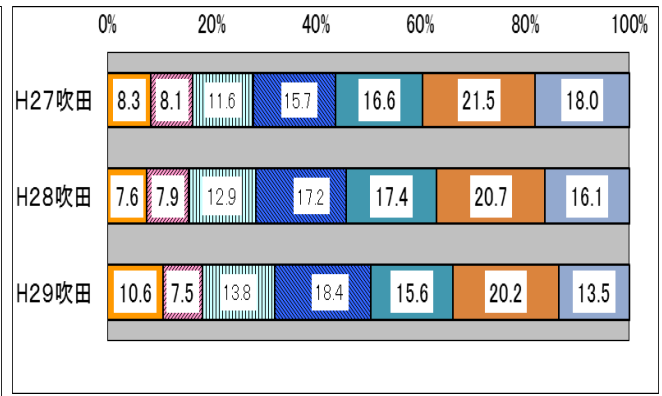
※通話等にはメール、インターネットを含み、携帯電話・スマートフォンを使ってゲームする時間は除く。

- ・1日1時間未満（持っていないを含む）の割合…小学生：82.3%（全国比＋2.9%、前回比－2.3%）
中学生：49.3%（全国比－0.2%、前回比－4.9%）
- ・小学生は全国値と比べると、携帯電話・スマートフォンの所有率が高い。

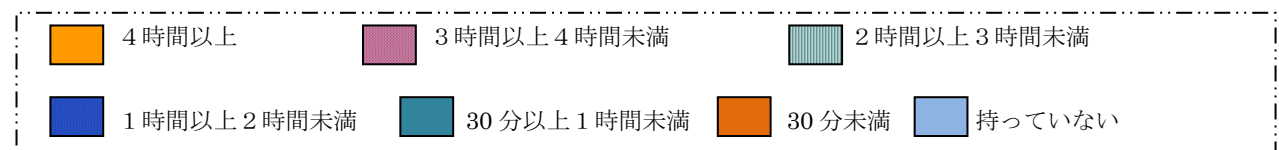
〔小学校〕



〔中学校〕



H27全国	3.1	2.6	4.1	7.1	11.1	30.0	42	H27全国	9.9	8.3	13.1	16.3	14.2	16.5	21.4
H28全国	3.0	2.8	4.6	8.1	11.9	30.7	38.9	H28全国	8.6	8.0	13.5	17.7	15.6	17.5	18.8
H29全国	3.8	3.2	5.0	8.5	12.2	30.5	36.7	H29全国	9.5	8.6	14.1	18.2	15.9	17.5	16.1

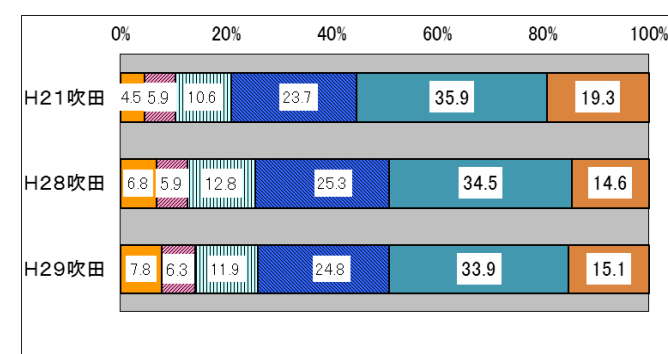


Q：普段（月曜～金曜）、どれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

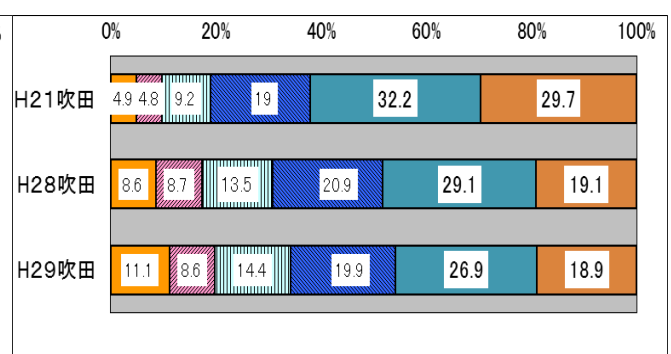
※テレビゲームにはコンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む。

- ・1日1時間未満の割合…小学生：49.0%（全国比＋4.6%、前回比－0.1%、H21比－6.2%）
中学生：45.8%（全国比＋4.9%、前回比－2.4%、H21比－16.1%）
- ・小・中学生とも全国値と比べると、テレビゲームをする時間は短い。

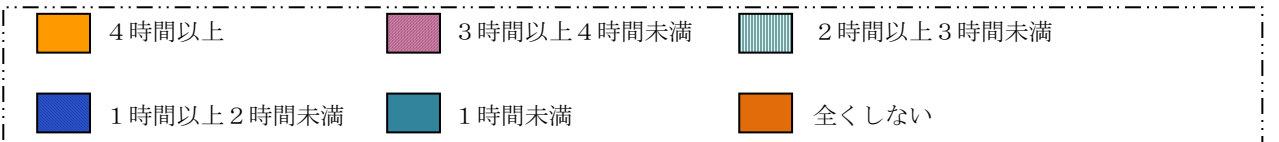
〔小学校〕



〔中学校〕



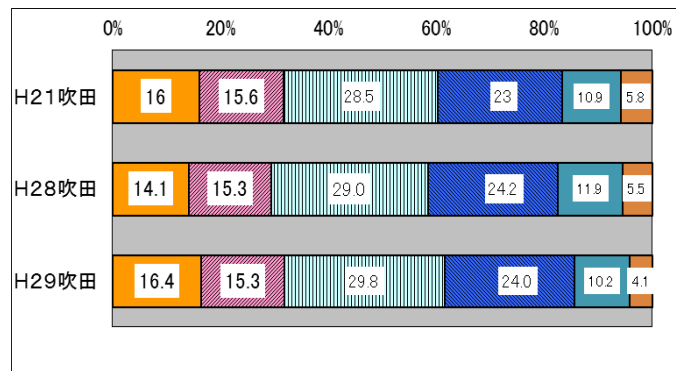
H21全国	5.5	6.1	11.8	24.4	34.6	17.7	H21全国	5.2	5.2	10.6	19.0	30.5	29.3
H28全国	8.2	7.8	13.7	25.3	31.1	14.0	H28全国	9.7	9.2	16.0	22.2	26.3	16.6
H29全国	9.3	8.3	13.5	24.4	30.4	14.0	H29全国	11.4	10.0	16.2	21.4	24.3	16.6



Q：学校の授業時間以外に、普段（月曜～金曜）、どれくらいの時間、勉強をしますか。

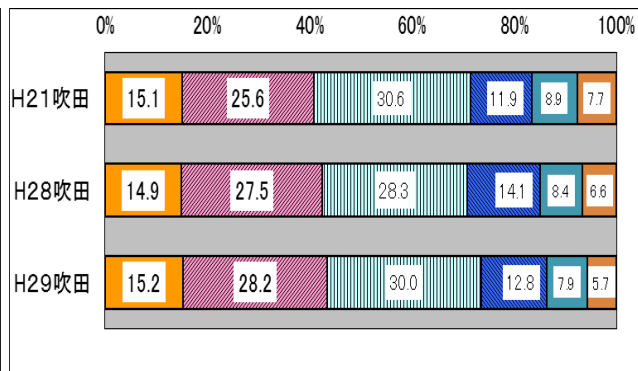
- ・1日2時間以上の割合…小学生：31.7%（全国比+4.6%、前回比+2.3%、H21比+0.1%）
 中学生：43.4%（全国比+5.1%、前回比+1.0%、H21比+2.7%）

〔小学校〕

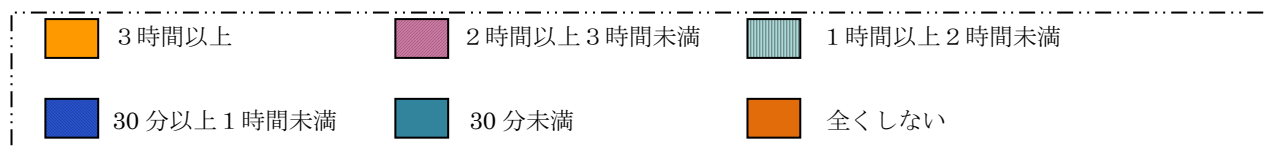


H21全国	11.6	14.1	31.5	26.4	12.3	4.0
H28全国	10.8	14.7	37.0	25.4	8.9	3.0
H29全国	11.9	15.2	37.3	24.3	8.4	2.9

〔中学校〕



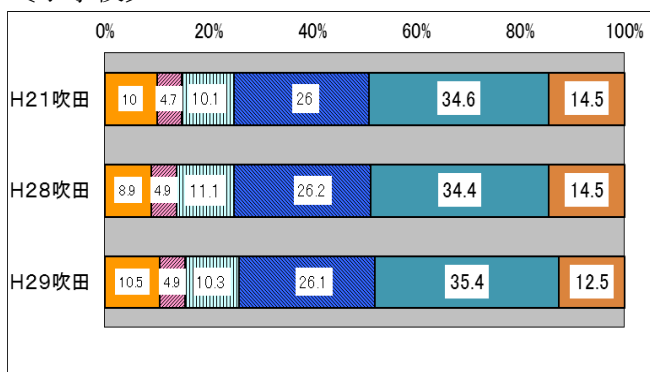
H21全国	10.2	25.5	29.6	16.6	10.3	7.7
H28全国	9.4	24.8	33.7	17.7	8.9	5.5
H29全国	10.1	25.3	34.2	17.2	8.3	4.9



Q：土曜日や日曜日など学校が休みの日に、どれくらいの時間、勉強をしますか。

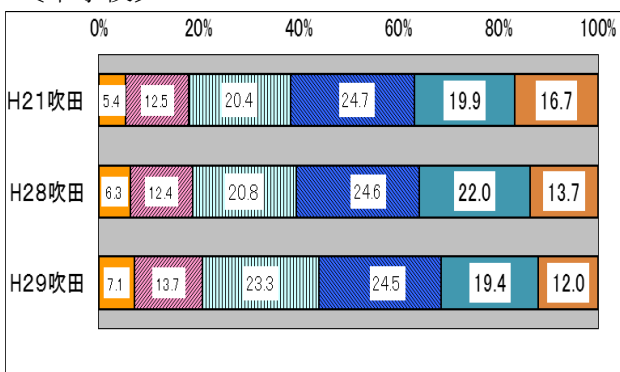
- ・1日2時間以上の割合…小学生：25.7%（全国比+1.1%、前回比+0.8%、H21比+0.9%）
 中学生：44.1%（全国比+2.3%、前回比+4.6%、H21比+5.8%）

〔小学校〕

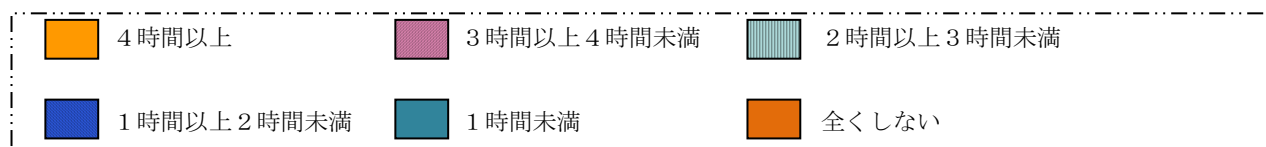


H21全国	6.6	4.7	11.5	29.6	35.6	11.8
H28全国	6.7	5.0	12.5	32.8	32.8	10.2
H29全国	7.1	5.1	12.4	32.7	32.9	9.7

〔中学校〕



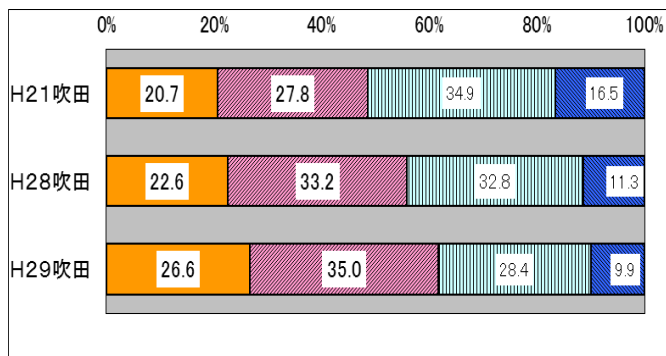
H21全国	4.6	10.8	21.7	25.4	22.7	14.7
H28全国	5.1	11.5	23.5	27.7	21	11.0
H29全国	5.7	12.1	24.0	27.6	20.4	10.0



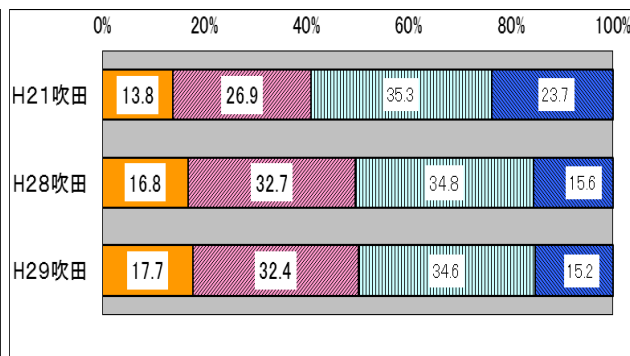
Q：自分で計画を立てて勉強していますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：61.6%（全国比－2.9%、前回比＋5.8%、H21比＋13.1%）
中学生：50.1%（全国比－1.4%、前回比＋0.6%、H21比＋9.4%）
- ・小・中学生とも、特に小学生は前回と比べると、自分で計画を立てて勉強している割合が伸びている。

〔小学校〕

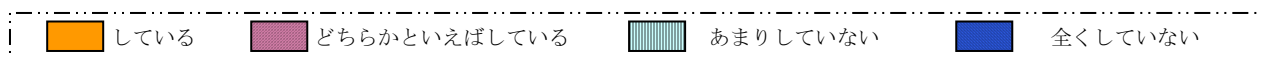


〔中学校〕



H21全国	23.3	31.4	31.9	13.3
H28全国	26.7	35.5	28.8	9.0
H29全国	30.0	34.5	26.1	9.4

H21全国	11.7	26.2	39.2	22.9
H28全国	16.0	32.4	36.7	14.8
H29全国	18.6	32.9	33.9	14.5



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）			
		国語A	国語B	算数A	算数B
1	している	81.0	66.1	87.2	58.3
2	どちらかといえばしている	78.5	62.0	84.0	52.3
3	あまりしていない	74.8	58.9	81.5	48.8
4	全くしていない	67.6	49.5	74.5	41.3

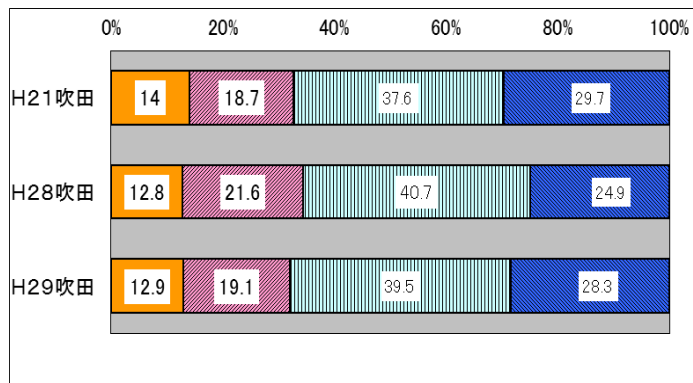
〔中学校〕

選択肢		平均正答率（％）			
		国語A	国語B	数学A	数学B
1	している	83.4	81.9	78.7	59.8
2	どちらかといえばしている	83.2	79.7	77.5	57.7
3	あまりしていない	79.5	75.1	70.0	51.9
4	全くしていない	75.3	68.2	63.8	47.3

Q：学校の授業の予習をしていますか。

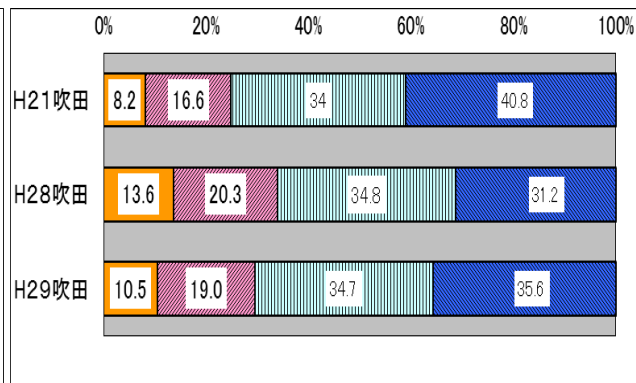
- ・肯定的回答率・・・小学生：32.0%（全国比－9.0%、前回比－2.4%、H21比－0.7%）
 中学生：29.5%（全国比－2.2%、前回比－4.4%、H21比＋4.7%）

〔小学校〕



H21全国	14.2	23.3	38.6	23.8
H28全国	16.7	26.6	37.6	19.0
H29全国	16.3	24.7	37.3	21.6

〔中学校〕



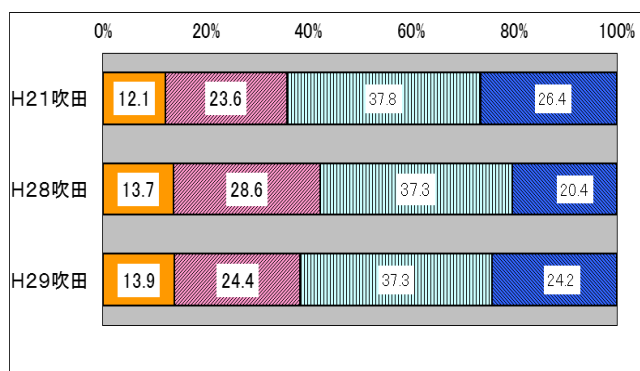
H21全国	8.9	20.6	37.4	32.9
H28全国	11.9	22.3	37.1	28.5
H29全国	11.3	20.4	36.9	31.2

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

Q：学校の授業の復習をしていますか。

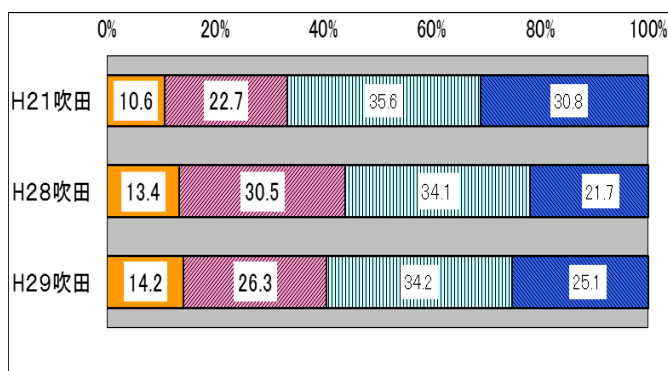
- ・肯定的回答率・・・小学生：38.3%（全国比－15.5%、前回比－4.0%、H21比＋2.6%）
 中学生：40.5%（全国比－10.0%、前回比－3.4%、H21比＋7.2%）

〔小学校〕



H21全国	17.4	28.6	34.6	19.3
H28全国	23.5	31.7	30.5	14.2
H29全国	23.6	30.2	29.7	16.3

〔中学校〕



H21全国	12.7	27.8	35.2	24.1
H28全国	18.4	32.6	31.6	17.0
H29全国	18.9	31.6	30.6	18.7

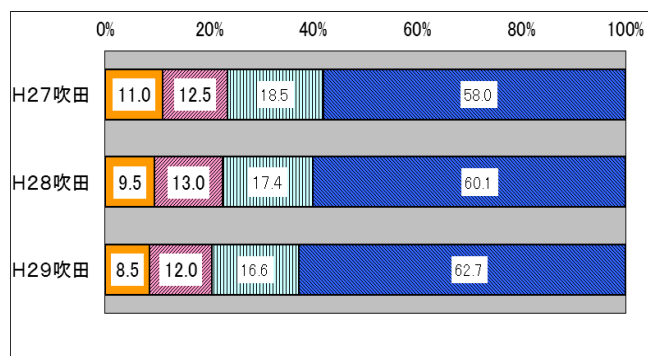
当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

Q：新聞を読んでいますか。

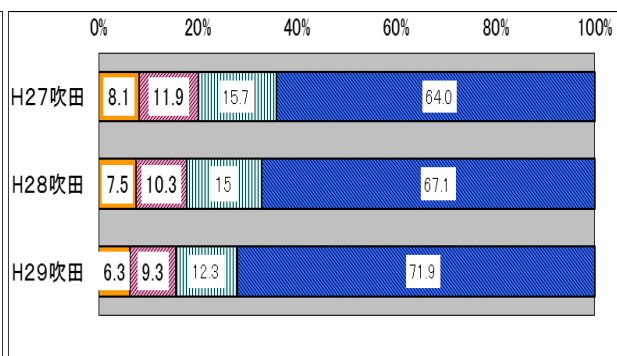
・肯定的回答率・・・小学生：20.5%（全国比－0.5%、前回比－2.0%、H27比－3.5%）
 中学生：15.6%（全国比＋0.7%、前回比－2.2%、H27比－2.0%）

※平成21年度にはこの設問がなかったため、平成27年度比を掲載しています。

〔小学校〕

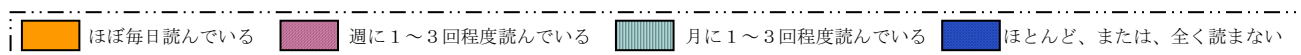


〔中学校〕



H27全国	8.7	15.0	21.9	54.3
H28全国	8.9	15.1	21.2	54.7
H29全国	7.8	13.2	19.2	59.6

H27全国	6.8	12.0	19.1	61.8
H28全国	6.5	11.8	17.7	63.9
H29全国	5.3	9.6	15.5	69.5



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率 (%)			
		国語A	国語B	算数A	算数B
1	ほぼ毎日読んでいる	82.7	68.3	89.0	61.8
2	週に1～3回程度読んでいる	81.5	66.0	87.7	59.0
3	月に1～3回程度読んでいる	78.4	62.0	84.0	52.1
4	ほとんど、または、全く読まない	75.1	58.7	81.3	49.0

〔中学校〕

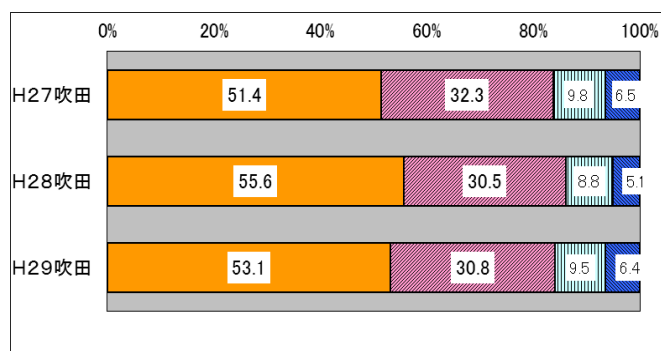
選択肢		平均正答率 (%)			
		国語A	国語B	数学A	数学B
1	ほぼ毎日読んでいる	87.5	85.5	81.9	66.4
2	週に1～3回程度読んでいる	85.2	83.0	79.3	61.2
3	月に1～3回程度読んでいる	82.5	78.4	75.8	56.5
4	ほとんど、または、全く読まない	79.3	74.9	71.0	52.3

Q：テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。

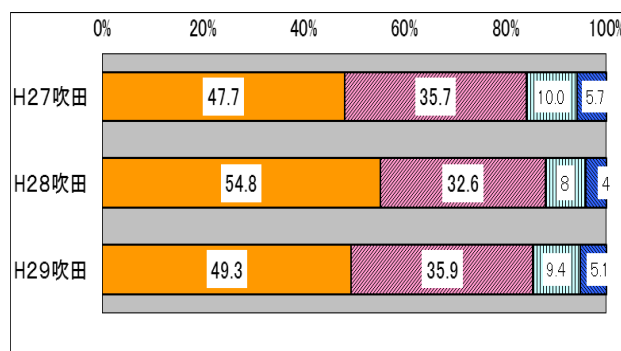
・肯定的回答率・・・小学生：83.9%（全国比－0.7%、前回比－2.2%、H27比＋0.2%）
 中学生：85.2%（全国比－1.5%、前回比－2.2%、H27比＋1.8%）

※平成21年度にはこの設問がなかったため、平成27年度比を掲載しています。

〔小学校〕

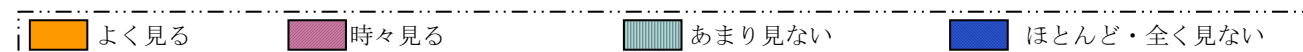


〔中学校〕



H27全国	52.9	31.4	9.6	6.0
H28全国	57.2	29.2	8.4	5.1
H29全国	54.5	30.1	9.4	6.0

H27全国	49.1	34.8	10.2	5.3
H28全国	55.0	32.4	8.0	4.0
H29全国	51.8	34.9	8.6	4.4



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）			
		国語A	国語B	算数A	算数B
1	よく見る	78.6	62.8	84.5	53.4
2	時々見る	75.9	59.4	82.4	50.4
3	あまり見ない	74.9	58.6	81.4	50.5
4	ほとんど・全く見ない	72.7	56.8	79.1	47.9

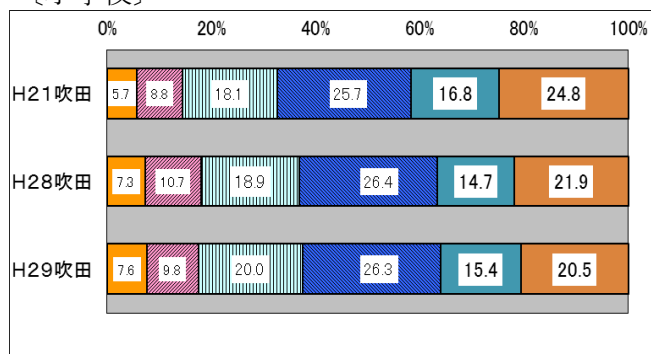
〔中学校〕

選択肢		平均正答率（％）			
		国語A	国語B	数学A	数学B
1	よく見る	83.2	79.9	75.7	56.9
2	時々見る	79.4	75.1	71.5	53.1
3	あまり見ない	76.9	72.1	69.2	51.6
4	ほとんど・全く見ない	73.5	66.7	65.2	47.9

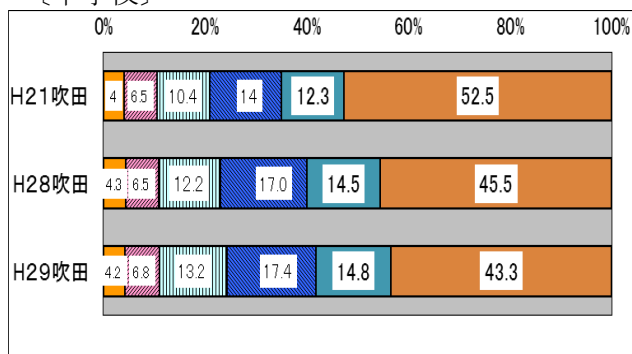
Q：学校の授業時間以外に、普段（月曜～金曜）、どれくらいの時間、読書をしますか。

- ・全くしない割合…小学生：20.5%（全国比±0.0%、前回比－1.4%、H21比－4.3%）
 中学生：43.3%（全国比＋7.7%、前回比－2.2%、H21比－9.2%）

〔小学校〕

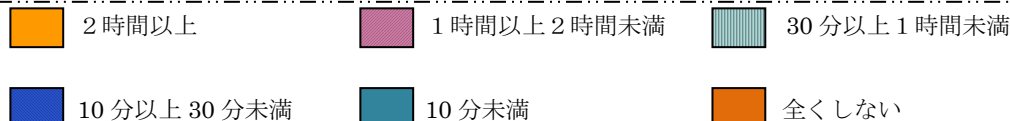


〔中学校〕



H21全国	6.1	10.0	19.1	26.0	16.9	21.7
H28全国	6.8	9.9	19.8	27.0	15.9	20.6
H29全国	6.9	9.9	19.7	26.8	16.1	20.5

H21全国	4.8	7.7	14.1	21.3	12.6	39.4
H28全国	5.5	8.1	14.6	21.5	13.1	37.2
H29全国	5.7	8.3	15.2	22.2	12.8	35.6



(3) 学校生活・学習について

現状及び経年比較

- ◇「学校へ行くのは楽しいと思うか」という質問に対して、小学生は全国値より上回っているが、中学生は下回っている。また、小・中学生とも平成27年度の値より下回っている。この質問に肯定的な回答をしている児童・生徒の方が平均正答率が高い傾向にある。
- ◇授業において、自分の考えを表現したり、友達と協同的に学んだりする機会を確保する授業改善は年々進んできている。小学生は自分の考えを発表する機会が定着していると思われる。中学生は、平成21年度と比較すると非常に大幅な向上が見られるが、全国値と比較するとまだ低い。
- ◇「授業のはじめに目標（めあて・ねらい）を示す」は小学校では定着している値が出ている。中学校は平成27年度・28年度と比較すると向上しているが、全国値よりはまだ低い。「授業の最後に学習内容を振り返る」ことについて、前年度より小・中学校は向上が見られたが、依然として全国値よりも低い。
- ◇授業において、自分の考えを発表できている、話し合う活動で自分の考えを深めたり広げたりできているという質問に対して、肯定的な回答をしている児童・生徒の方が平均正答率が高い傾向にある。

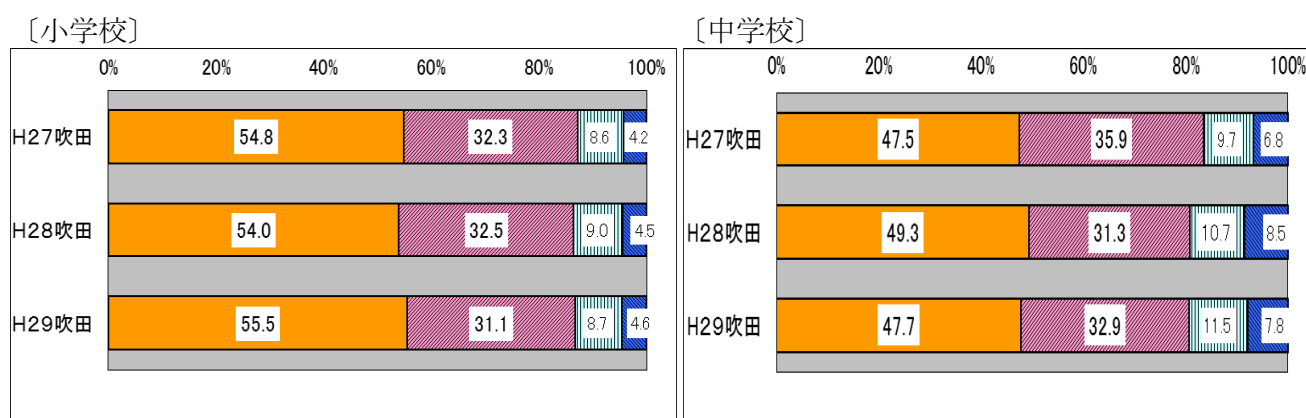
改善・向上のために

- ◆学校
 - ・新学習指導要領に掲げられている「主体的・対話的で深い学び」の視点の授業改善を行うことで、目標が明確化された授業の中で、子供たちが自分自身の学びや、友達と協同的に学ぶことの良さを実感できるように授業改善を組織的・継続的に行う。
 - ・めあての提示、自分で考える時間や話し合う活動の確保、振り返りの実施等、授業の流れについて学校の組織として統一したスタイルを確立するとともに、小中の連携を図り、学びの連続性を意識する。

Q：学校へ行くのは楽しいと思いますか。

・肯定的回答率・・・小学生：86.6%（全国比+0.3%、前回比+0.1%、H27比-0.5%）
 中学生：80.6%（全国比-0.3%、前回比±0.0%、H27比-2.8%）

※平成21年度にはこの設問がなかったため、平成27年度比を掲載しています。



H27全国	55.3	31.7	8.8	4.2	H27全国	47.5	34.6	11.5	6.3
H28全国	55.2	31.1	9.3	4.3	H28全国	48.4	33.0	12.0	6.6
H29全国	55.4	30.9	9.2	4.3	H29全国	47.3	33.6	12.2	6.9

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

【平均正答率との関係】

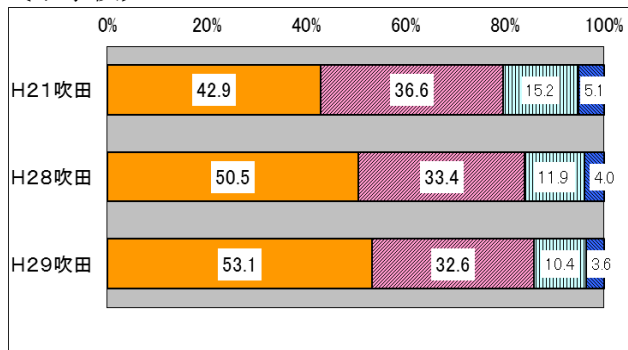
選択肢		平均正答率（％）			
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
1	そう思う	79.0	63.1	84.8	53.7
2	どちらかといえば、そう思う	75.7	59.6	82.1	50.7
3	どちらかといえば、そう思わない	72.0	57.2	80.0	48.4
4	そう思わない	71.8	51.8	77.8	43.2

選択肢		平均正答率（％）			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
1	そう思う	81.5	78.1	74.5	55.8
2	どちらかといえば、そう思う	80.8	77.0	73.5	55.1
3	どちらかといえば、そう思わない	79.8	74.0	69.3	51.3
4	そう思わない	77.1	71.0	67.0	48.8

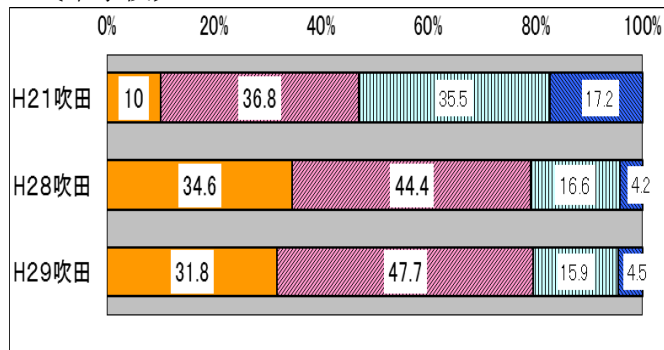
Q：授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか。

・肯定的回答率・・・小学生：85.7%（全国比+1.0%、前回比+1.8%、H21比+6.2%）
 中学生：79.5%（全国比-4.9%、前回比+0.5%、H21比+33.0%）

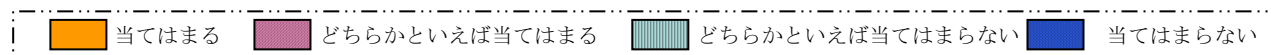
〔小学校〕



〔中学校〕



H21全国	43.1	36.2	15.5	5.0	H21全国	25.2	44.4	22.1	8.0
H28全国	53.2	31.9	11.3	3.4	H28全国	43.5	40.6	12.3	3.5
H29全国	52.9	31.8	11.6	3.6	H29全国	42.5	41.9	12.1	3.3



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）			
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
1	当てはまる	80.2	65.6	86.4	56.9
2	どちらかといえば当てはまる	75.5	58.0	81.2	48.0
3	どちらかといえば当てはまらない	70.0	52.9	78.2	44.1
4	当てはまらない	65.6	43.4	69.5	35.6

〔中学校〕

選択肢		平均正答率（％）			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
1	当てはまる	82.7	79.3	75.6	57.1
2	どちらかといえば当てはまる	81.3	77.9	73.8	54.8
3	どちらかといえば当てはまらない	78.3	73.3	69.4	52.2
4	当てはまらない	70.3	59.0	59.5	41.5

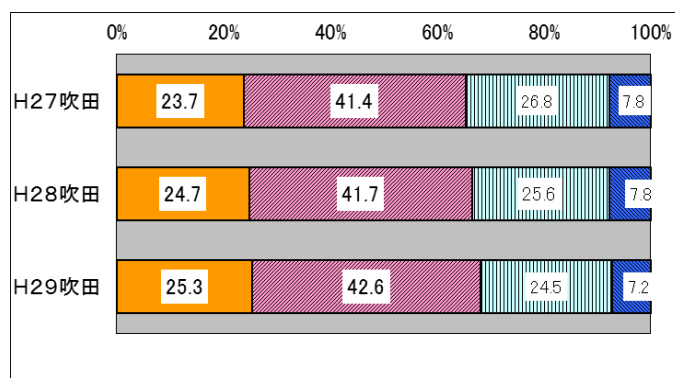
Q：話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

・肯定的回答率・・・小学生：66.9%（全国比－1.3%、前回比＋1.5%、H27比＋1.8%）

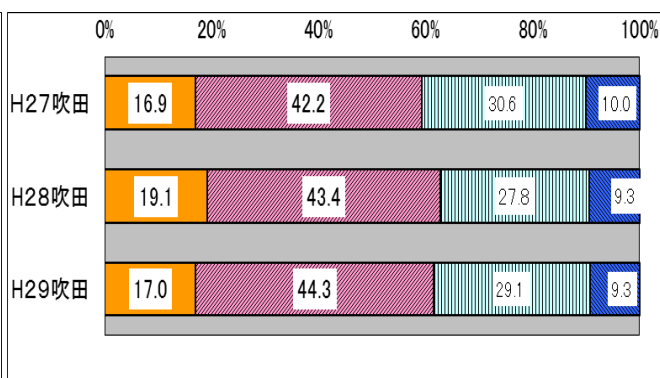
中学生：61.3%（全国比－3.5%、前回比－1.2%、H27比＋2.2%）

※平成21年度にはこの設問がなかったため、平成27年度比を掲載しています。

〔小学校〕

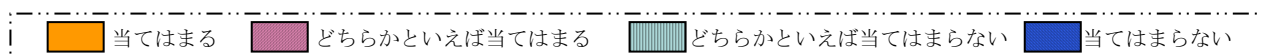


〔中学校〕



H27全国	25.2	41.7	25.5	7.5
H28全国	26.4	41.9	24.4	7.0
H29全国	26.9	41.3	24.2	7.3

H27全国	18.4	44.5	28.5	8.3
H28全国	20.2	44.6	26.7	8.2
H29全国	19.7	45.1	26.7	8.1



【平均正答率との関係】

〔小学校〕

選択肢		平均正答率（％）			
		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
1	そう思う	80.3	64.2	85.6	56.0
2	どちらかといえば、そう思う	77.7	63.1	83.8	53.3
3	どちらかといえば、そう思わない	74.6	56.6	81.7	47.9
4	そう思わない	70.5	51.8	76.7	42.7

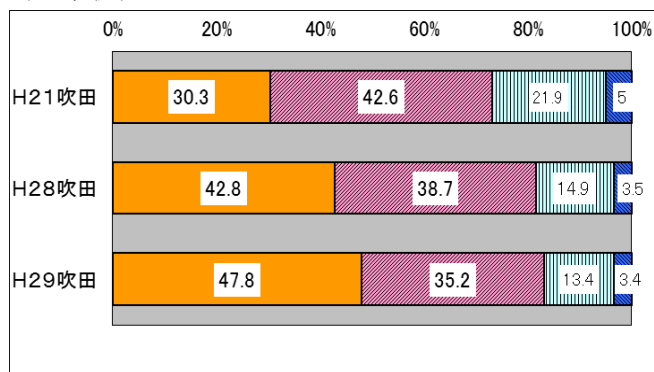
〔中学校〕

選択肢		平均正答率（％）			
		国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
1	そう思う	81.0	75.8	73.3	53.9
2	どちらかといえば、そう思う	83.0	80.3	76.0	57.8
3	どちらかといえば、そう思わない	79.0	74.8	70.8	52.4
4	そう思わない	75.4	68.0	65.6	47.0

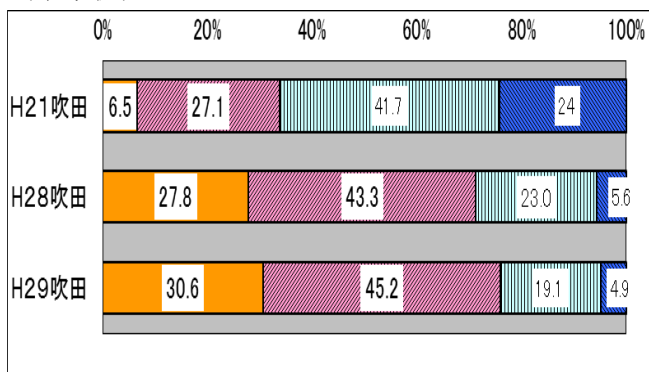
Q：授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：83.0%（全国比－1.5%、前回比＋1.5%、H21比＋10.1%）
 中学生：75.8%（全国比－6.0%、前回比＋4.7%、H21比＋42.2%）

〔小学校〕



〔中学校〕



H21全国	33.4	42.2	20.0	4.3
H28全国	45.2	38.2	13.5	3.0
H29全国	46.9	37.6	12.5	2.8

H21全国	13.8	38.9	35.4	11.7
H28全国	34.9	42.9	18.0	4.0
H29全国	38.9	42.9	14.8	3.2

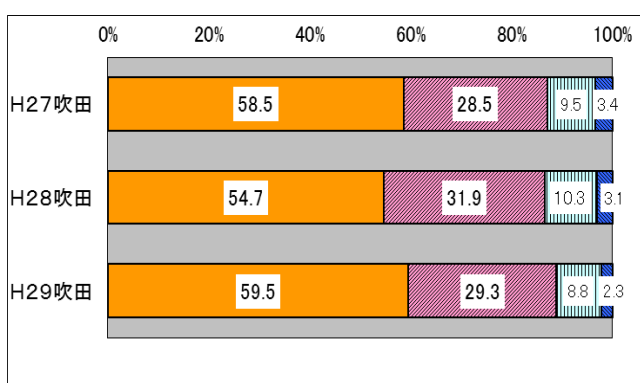
当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

Q：授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか。

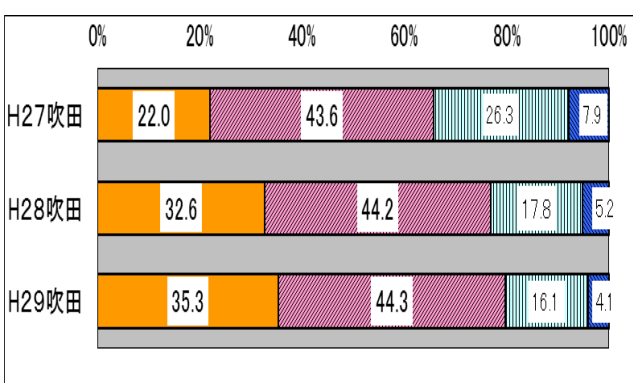
- ・肯定的回答率・・・小学生：88.8%（全国比＋0.6%、前回比＋2.2%、H27比＋1.8%）
 中学生：79.6%（全国比－8.2%、前回比＋2.8%、H27比＋14.0%）

※平成21年度にはこの設問がなかったため、平成27年度比を掲載しています。

〔小学校〕



〔中学校〕



H27全国	57.5	28.8	10.3	3.3
H28全国	56.9	30.7	9.7	2.6
H29全国	58.6	29.6	9.1	2.5

H27全国	41.9	37.8	15.7	4.6
H28全国	47.6	37.3	11.9	3.0
H29全国	53.1	34.7	9.4	2.5

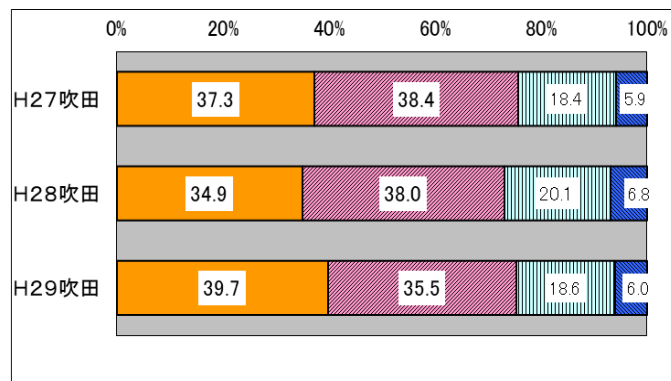
当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

Q：授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか。

・肯定的回答率・・・小学生：75.2%（全国比－1.0%、前回比＋2.3%、H27比－0.5%）
 中学生：55.0%（全国比－11.1%、前回比＋4.7%、H27比＋10.3%）

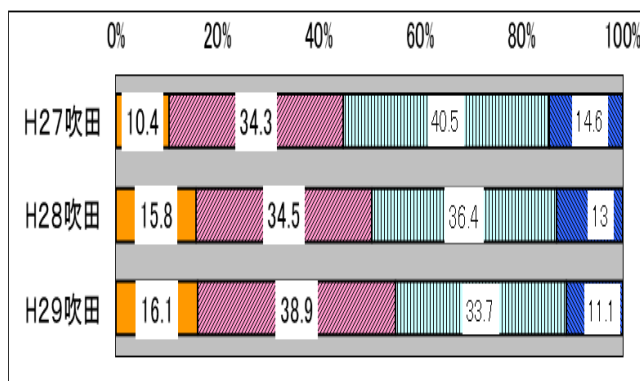
※平成21年度にはこの設問がなかったため、平成27年度比を掲載しています。

〔小学校〕



H27全国	38.9	36.4	17.7	5.8
H28全国	39.9	36.2	18.4	5.3
H29全国	40.3	35.9	18.3	5.3

〔中学校〕



H27全国	19.4	39.9	31.6	8.9
H28全国	23.3	39.8	28.6	8.2
H29全国	25.3	40.8	26.7	7.0

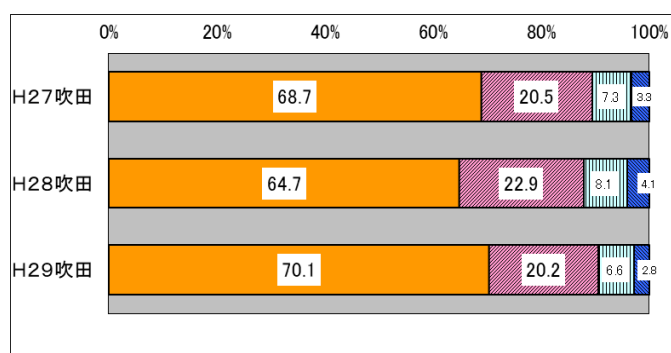
当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

Q：授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか。

・肯定的回答率・・・小学生：90.3%（全国比＋1.6%、前回比＋2.7%、H27比＋1.1%）
 中学生：65.8%（全国比－14.5%、前回比＋2.4%、H27比＋8.5%）

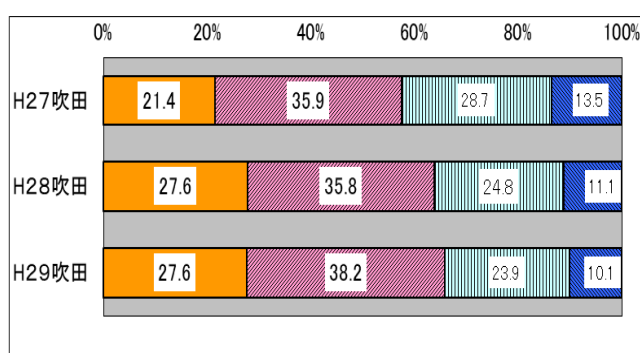
※平成21年度にはこの設問がなかったため、平成27年度比を掲載しています。

〔小学校〕



H27全国	66.6	20.5	8.7	4.1
H28全国	67.4	20.5	8.4	3.6
H29全国	68.9	19.8	7.8	3.3

〔中学校〕



H27全国	39.3	34.4	18.4	7.6
H28全国	43.8	33.0	16.2	6.5
H29全国	47.6	32.7	14.3	5.2

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

(4) 調査教科（国語、算数・数学）について

現状及び経年比較

〔国語〕

- ◇「話す」「書く」「読む」力を身につけるための姿勢は、平成21年度と比較すると、小・中学生とも年々大幅に向上しているものの、全国値よりも低いものがほとんどである。
- ◇授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする割合は全国値には届いていないが、小・中学生とも平成21年度より増えている。小学生は平成28年度よりも上回っている。

〔算数・数学〕

- ◇日常生活や将来に生かすことへの意欲は、平成21年度や前年度と比較すると向上しているが、全国値と比較すると低い。
- ◇思考力・判断力・表現力を身につけるための姿勢は、平成21年度と比較すると、小・中学生とも大幅に向上しており、全国値よりやや上回っているものがほとんどである。

改善・向上に向けて

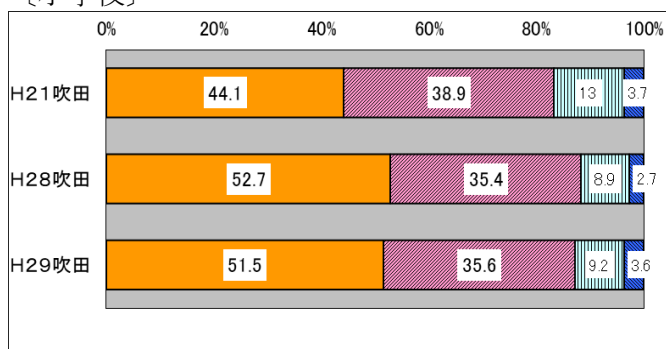
- ◆学校 ・小中一貫教育の中で、「話す」「書く」「読む」力や、思考力・判断力・表現力等を系統的に育めるよう、同一中学校ブロックの教職員が指導の内容や時期、方法等について年間を通じて計画的に共有し、実践する。
- ・児童・生徒が学習していく過程で「何ができるか・何を理解しているか」「理解していること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」を明確にイメージできるような授業の構造化に教職員が日々取り組む必要がある。

【国語】

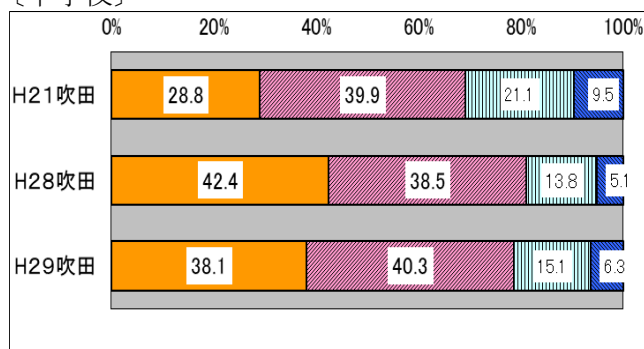
Q：授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：87.1%（全国比－0.8%、前回比－1.0%、H21比＋4.1%）
中学生：78.4%（全国比－4.9%、前回比－2.5%、H21比＋9.7%）

〔小学校〕

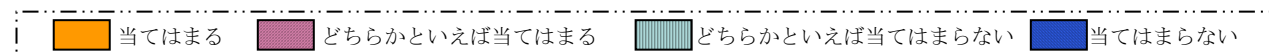


〔中学校〕



H21全国	49.0	36.1	11.3	3.4
H28全国	57.9	31.3	7.9	2.6
H29全国	55.7	32.2	8.7	3.1

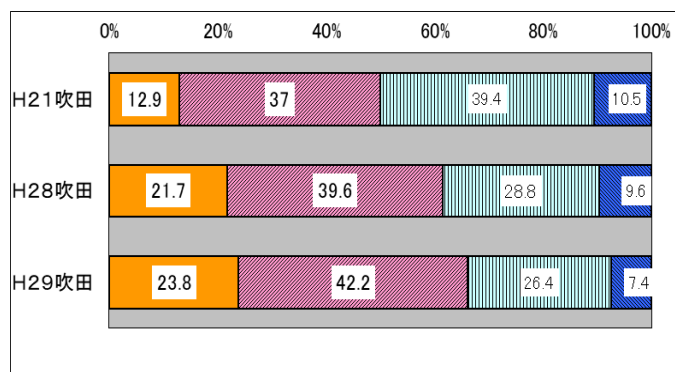
H21全国	35.8	42.6	15.8	5.5
H28全国	46.2	38.4	11.5	3.7
H29全国	44.7	38.6	12.3	4.1



Q：授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。

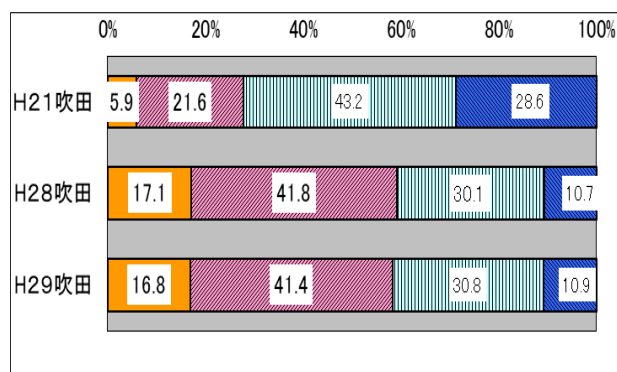
・肯定的回答率・・・小学生：66.0%（全国比－2.0%、前回比＋4.7%、H21比＋16.1%）
 中学生：58.2%（全国比－4.5%、前回比－0.7%、H21比＋30.7%）

〔小学校〕

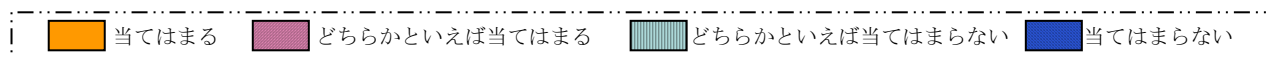


H21全国	15.5	40.5	34.9	9.0
H28全国	25.1	41.9	26.0	6.8
H29全国	26.1	41.9	25.1	6.7

〔中学校〕



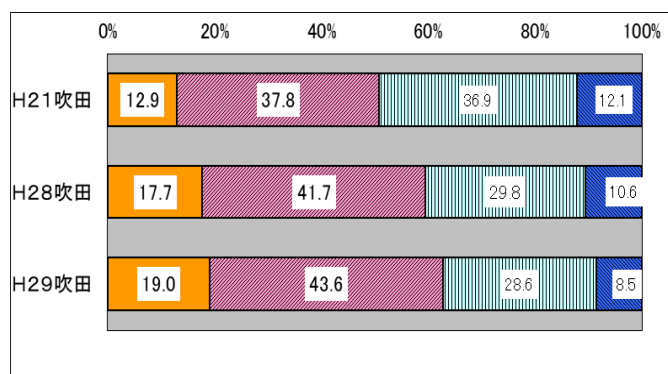
H21全国	9.6	32.2	42.5	15.5
H28全国	19.5	42.7	29.3	8.3
H29全国	19.4	43.3	28.9	8.1



Q：授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。

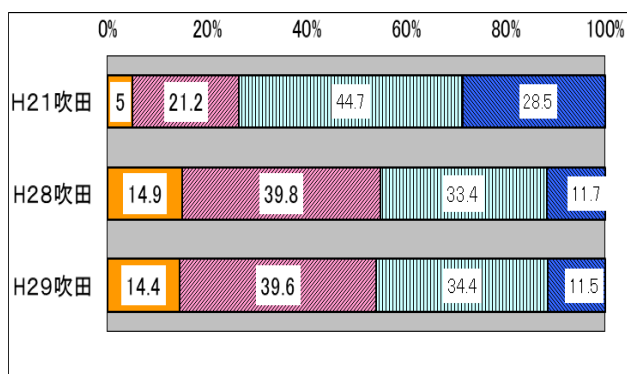
・肯定的回答率・・・小学生：62.6%（全国比－0.8%、前回比＋3.2%、H21比＋11.9%）
 中学生：54.0%（全国比－1.6%、前回比－0.7%、H21比＋27.8%）

〔小学校〕

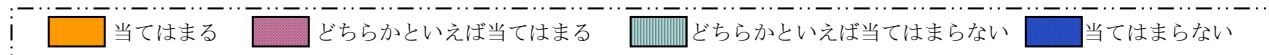


H21全国	16.8	39.5	33.5	10.1
H28全国	20.8	41.5	28.9	8.5
H29全国	21.2	42.2	28.1	8.2

〔中学校〕



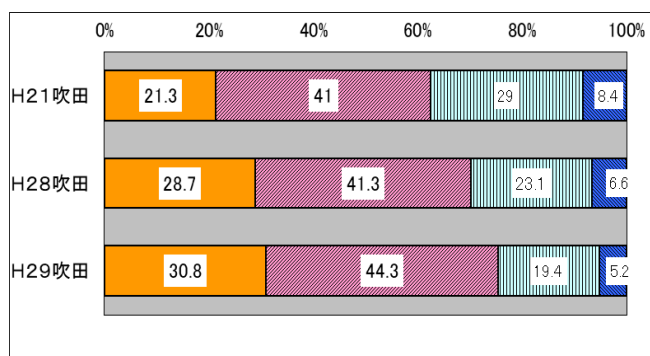
H21全国	8.2	31.1	43.7	16.8
H28全国	15.9	40.8	33.4	9.6
H29全国	15.3	40.3	34.2	9.8



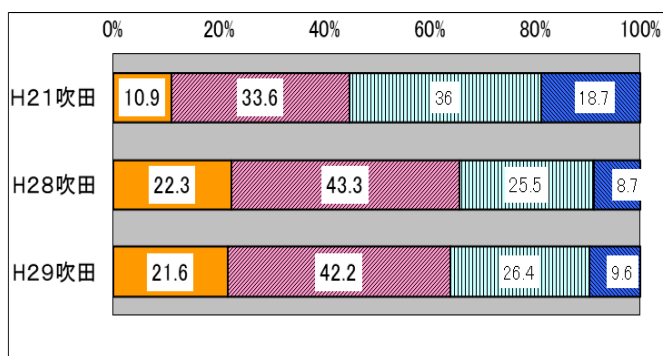
Q：授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：75.1%（全国比+0.3%、前回比+5.1%、H21比+12.8%）
 中学生：63.8%（全国比-2.1%、前回比-1.8%、H21比+18.3%）

〔小学校〕

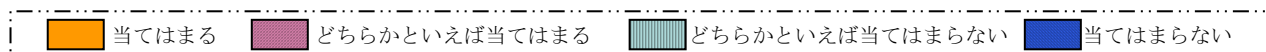


〔中学校〕



H21全国	24.6	41.6	26.6	7.0
H28全国	31.9	42.1	20.4	5.3
H29全国	33.1	41.7	19.6	5.3

H21全国	14.8	40.3	33.2	11.3
H28全国	23.1	43.6	26.0	7.1
H29全国	22.7	43.2	26.2	7.5

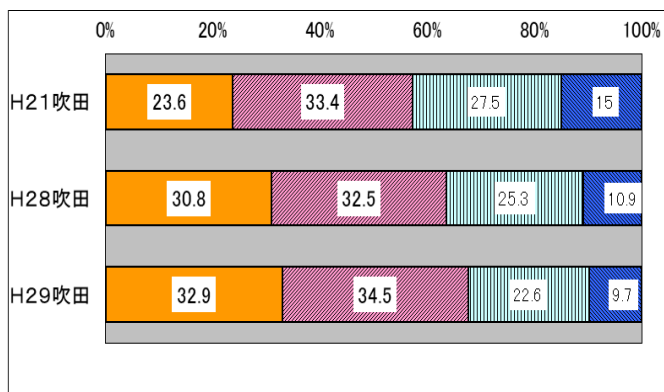


【算数・数学】

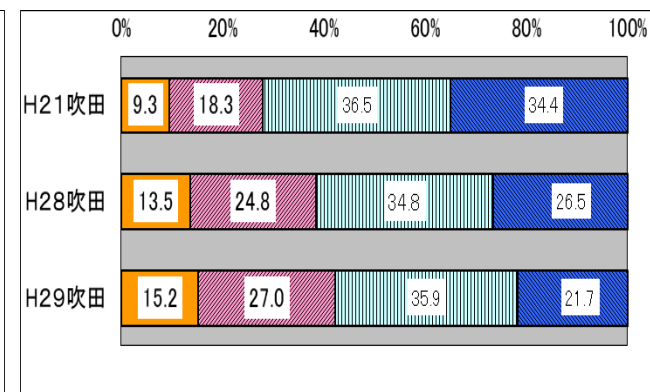
Q：授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考えていますか。

- ・肯定的回答率・・・小学生：67.4%（全国比-1.7%、前回比+4.1%、H21比+10.4%）
 中学生：42.2%（全国比-3.1%、前回比+3.9%、H21比+14.6%）

〔小学校〕

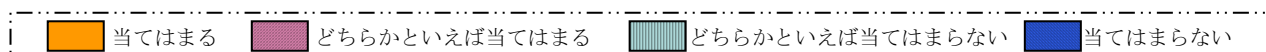


〔中学校〕



H21全国	29.7	34.3	24.9	10.8
H28全国	33.4	34.0	23.0	9.2
H29全国	35.6	33.5	21.8	8.8

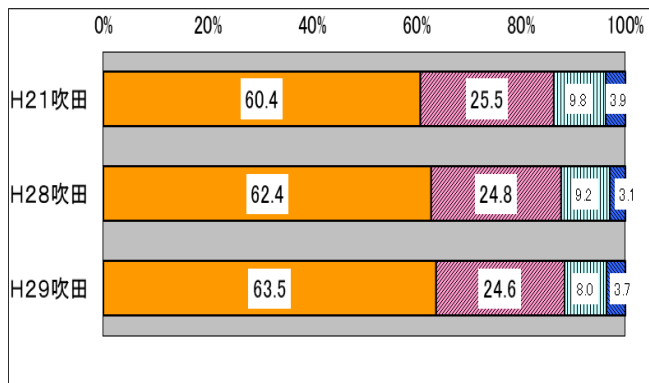
H21全国	11.3	23.0	39.1	26.0
H28全国	15.1	26.8	35.8	21.9
H29全国	16.5	28.8	35.5	18.9



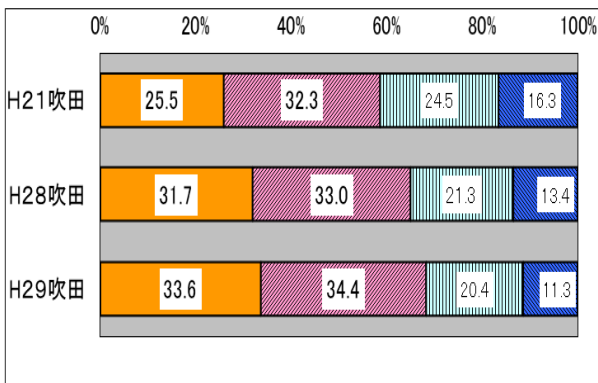
Q：授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。

・肯定的回答率・・・小学生：88.1%（全国比－1.0%、前回比＋0.9%、H21比＋2.2%）
 中学生：68.0%（全国比－4.4%、前回比＋3.3%、H21比＋10.2%）

〔小学校〕



〔中学校〕



H21全国	63.8	24.4	8.4	3.1
H28全国	67.6	22.3	7.1	2.7
H29全国	66.7	22.4	7.5	3.2

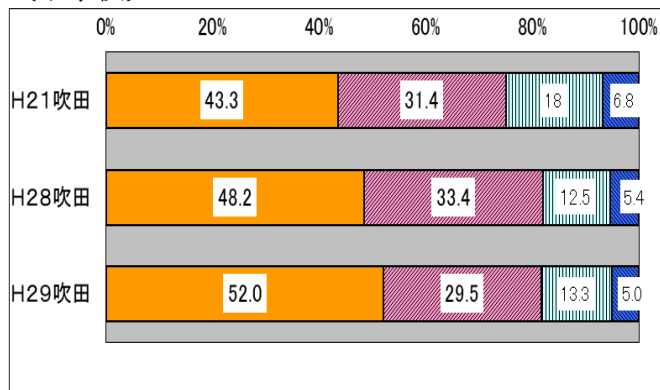
H21全国	30.7	34.5	22.4	11.9
H28全国	36.9	34.6	19.1	9.0
H29全国	37.7	34.7	18.6	8.7

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

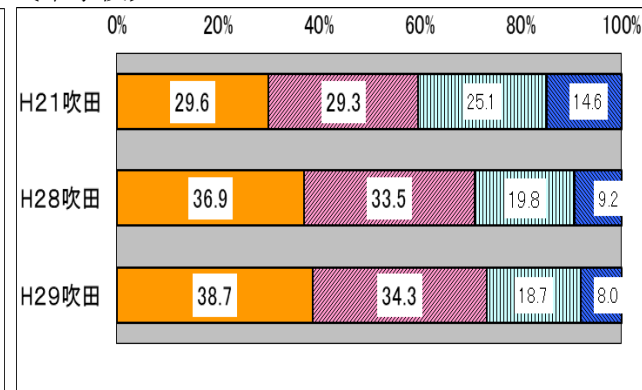
Q：授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないかを考えていますか。

・肯定的回答率・・・小学生：81.5%（全国比＋0.1%、前回比－0.1%、H21比＋6.8%）
 中学生：73.0%（全国比＋1.8%、前回比＋2.6%、H21比＋14.1%）

〔小学校〕



〔中学校〕



H21全国	44.9	33.2	16.1	5.5
H28全国	47.8	32.7	14.2	5.0
H29全国	49.2	32.2	13.5	4.8

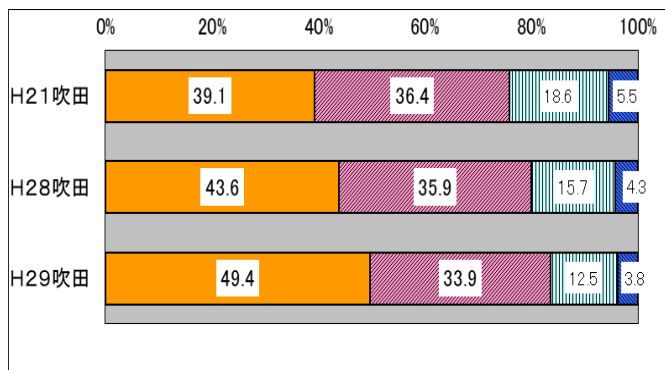
H21全国	30.6	33.0	25.3	10.5
H28全国	35.5	33.5	21.7	8.9
H29全国	37.3	33.9	20.5	7.9

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

Q：授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解しているようにしていますか。

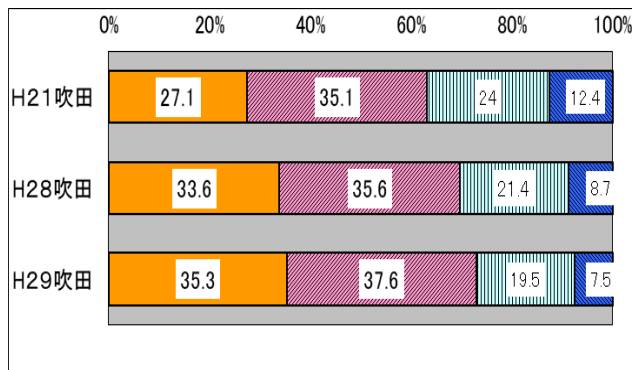
- ・肯定的回答率・・・小学生：83.3%（全国比+0.7%、前回比+3.8%、H21比+7.8%）
 中学生：72.9%（全国比+0.8%、前回比+3.7%、H21比+10.7%）

〔小学校〕



H21全国	42.8	35.9	16.1	4.8
H28全国	45.5	35.3	14.5	4.3
H29全国	48.2	34.4	13.2	3.9

〔中学校〕



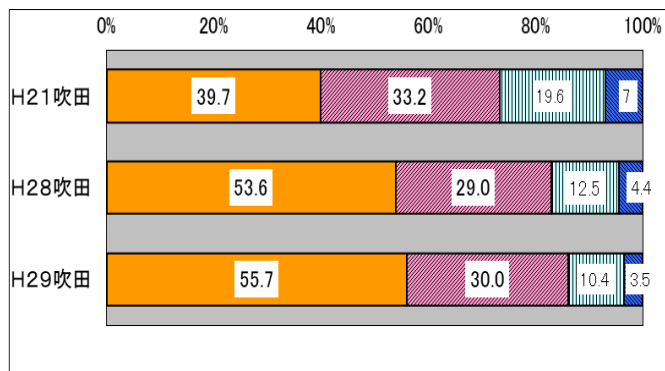
H21全国	28.3	37.4	24.5	9.2
H28全国	32.2	37.6	21.9	7.8
H29全国	34.0	38.1	20.5	7.0

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

Q：授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。

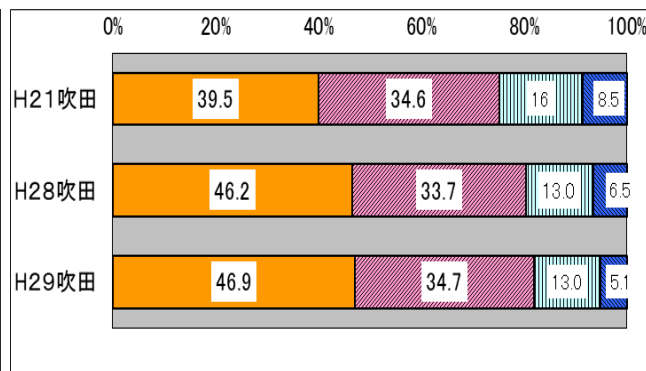
- ・肯定的回答率・・・小学生：85.7%（全国比-0.3%、前回比+3.1%、H21比+12.8%）
 中学生：81.6%（全国比+0.3%、前回比+1.7%、H21比+7.5%）

〔小学校〕



H21全国	46.8	32.7	15.2	4.9
H28全国	55.8	29.0	11.2	3.6
H29全国	57.0	29.0	10.4	3.2

〔中学校〕



H21全国	41.6	35.2	15.8	6.7
H28全国	47.3	33.8	13.0	5.4
H29全国	47.0	34.3	13.0	5.3

当てはまる
 どちらかといえば当てはまる
 どちらかといえば当てはまらない
 当てはまらない

おわりに ～「総合的人間力の育成」を目指して～

教育は未来(あす)を拓く営みであり、子供たちの健やかな成長は全ての人々の変わらぬ願いです。

吹田市では、子供たちに「生きる力」の基盤となる「確かな学力」の育成を最重点課題に位置付け、義務教育9年間を見通す小中一貫教育を推進する中、各学校で創意工夫を凝らした様々な教育実践を展開しています。今年度も、平成21年度の調査結果と比較することにより、本市における小中一貫教育を基盤とする「総合的人間力」の育成に係る教育施策の効果を検証しました。その結果、学力に関する調査、学習状況に関する調査ともに向上した点と課題が見られました。

各学校においては、全国学力・学習状況調査で明らかになった課題の克服に向け、それぞれの課題を踏まえ、新学習指導要領の実施に向けて、主体的・対話的で深い学びができるよう、以下の主要な視点等から、学力向上への取組をさらに進めてまいります。

学力向上のための主要な視点

- 9年間を見通した、主体的・対話的で深い学びができる授業づくり
 - ・ 各校及び各中学校ブロックにおける小中一貫教育カリキュラムの作成による、系統的で継続性のある教科指導の定着
 - ・ 授業の始めに目標（めあて・ねらい）の明確な提示
 - ・ 子供たちが主体的に学習する活動や、対話的活動等を伴った学習の充実
 - ・ 授業の終わりに学習内容を振り返ることによる、理解の定着
 - ・ 新学習指導要領の実施に向けた教職員の指導力と授業の質的向上
 - ・ 学習評価を有効に活用することで、個々のつまずきに対応する等、個に応じた指導の充実
 - ・ I C Tを活用した授業の研究と実践
 - ・ 社会に関心を持ち、自発的に調べる意欲につながる授業実践や環境設定
- 授業規律、生活規律の確立
 - ・ 各中学校ブロックで、小中共通の指導項目による系統的で継続性のある授業規律、生活規律の確立
 - ・ 校内指導体制の充実と生徒指導組織の機能化
 - ・ インターネットや携帯電話・スマートフォン使用の在り方に関する指導
- 習熟度別授業等、一人ひとりに応じたきめ細かな指導
 - ・ 児童・生徒の実態に応じた習熟度別指導の充実
 - ・ 少人数指導における指導方法、指導形態等の検証と改善
- 自学自習力の育成
 - ・ 思考力・判断力・表現力の基盤を支える読書活動・学校図書館教育の充実
 - ・ 放課後学習や補習、宿題指導等の学習支援の充実
 - ・ 家庭との連携を図り、自ら学習に向かう家庭学習習慣の確立

教育委員会としましては、本調査の全市的な傾向・課題を踏まえ、また新学習指導要領の実施に向け、掲げました「学力向上のための主要な視点」を施策として組み入れるなど、教員の指導力の向上、各学校における研究、実践等を支援するとともに、学校・家庭・地域が手を携えて「総合的人間力の育成」に向けた取組を進め、教育活動の充実・発展を図ってまいります。

平成29年(2017年)10月